明治三十二年十二月二十五日

女學雜誌

第五百二號

Dec 1899
no. 502

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第五百貳號目次

◎社説
歳末勸言
年暮隨感
◎評論
當年一歳の回顧(山形東根)
歳末「死」觀(青柳有美)
◎亞米利加だより
桑港の日本婦人(櫻井鷗村)
婦人ホーム
ミルス女子大學
◎女學(欠欄)
◎隨感
心外無別法の情義 ○年配三等段 ○早老の隱因 ○我心席にあらず ○路上憫れむべきの老者 ○夢物語○外貨輸入○內貨輸出○教旨等々段 ○夜々誰か靈心か通ふ○獨り樂むの途は多し
◎雜錄
海舟先生高談
罰を熱海のさまよひ日記(宗結)
同人社
戀の歌(惡魔の子)
◎寄書
神戶教會婦人會に謝するの辭(朝比奈天行)
◎時事
宗教法案 ○宗教教育隔離內訓に對する米人の反動○明治音樂會納會 ○猿之助と花橋 ○橘糸重女史
◎新刊書
暮笛集○明治書翰文範 ○旅懺悔 ○迷信の日本○數學遊戲 ○射的術 ○漢高祖○吉野拾遺詳解○女子普通文典○商工地理學○乞食王子
◎片々
◎時報

社告

◎本誌は毎月二回即はち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や平易實際の記事を專にし、第一、家庭の整理改善に益あるべき事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗教及び教育等に對する吾黨の卑見を陳述し、大に世上君子に問はんとするを旨とす。

◎單に十日發行の分のみ又は廿五日發行の分のみと指定して所望せらるるものあらば其の需めに應ずべし

女學雜誌定價表

前金	壹冊定價 拾錢 半年分定價 壹圓拾錢 一年分定價 貳圓 (內國無郵稅) 代金は總て前金にて御注文ありたし◎年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送することも可有之事 但し其節は總て一冊十錢の割にて計算して請求可致事是れ甚に不本意乍ら計算の煩はしき不得止左樣仕候間かれて御承知被下度候
廣告料	一行(廿二字詰)一回 前金拾錢 同 三回以上 一割引 同 六回以上 二割引
送金	送金は東京駒込郵便支局に宛て小爲替にせられたし◎郵便切手にて送らるる人は總べて一割增にて計算せられたし

明治三十二年十二月廿五日印刷
明治三十二年十二月廿五日發行
發行兼編輯人 巖本善治
印刷人 布川孫市
東京府北豐島郡巢鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所 女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所 株式會社秀英舍第一工場
(電話番町十九番)

月刊雜誌
無絃之響
毎月一回一日發行

◎改正定價表(內國無郵稅)
一冊定價前金四錢五厘
半ケ年分定價廿七錢
一ケ年分定價五拾錢

是迄本誌は一冊三錢定價なりしが今回(來る二月發行第七號より)紙面に大改正を施行すると共に價をも改正致し候に付此段廣告候◉主義は心中に存する者、言論は其宜しきに隨ふ可き而已。世に一二篇二三卷の文を揭けて執る所の主義を此に揚言し以て盛名を晩年に垂れんと欲する者あり、吾人は斯の如に倣ふを贊好同意せざる也、我は百篇千篇月日年紀を經過するに隨て、四方の事是とす可きは之れを是とし、非とすべきは之を非とし、是とし非とし、幾多是非の間始めて彷彿として主義、顯るる在らん、之れを示しで以て吾人の主義を唱へん、故に必竟我が主義の如何は讀者同人の呼ぶに任して敢て之を皷吹嘗傳せず只だ眞面目に歳月刊行を重ぬるに委し地方未見の同人に一片の主義を傳んと欲する而已。希ふ望むらくは同人此意を諒せられんことを、我が『無紘之響』は雜誌の爲にせず主義發表の爲にするなり、若し雜誌を作るが爲に刊行するの意なりせば、讀者に妄言を吐き徒らに奇警を劃するも可なり、百事を包容するも可なり、紙質體裁に重きを置くも不可なけん、其他鮮巧なる寫眞插畫版に人目を惹き珍奇無味なる趣考に依て讀者諸彦の意を繫ぐも皆可ならざる莫しと雖も斯る事は吾人の堪ふる能はざる所、尙且つ本誌の發刊主義に異變する所、故に余輩は些々斯の如き一ミキヨツクラフ版の小册子とは雖も敢て自棄することなく尊重の念を以て之に對し庶幾は其發達と進歩は遠く將來に期し以て刻下の分を盡さんことを之れ吾人同人の安心立命の地にして亦本誌の本領とする所なり、今や來る一月一日を期して發兌せんとする第六號には長井金風、三輪花影、井口白眼、桃花、有美の面々奇警光々、純傑清雅なる健筆を以て或は文に或は詩に或は歌に或は俳句に自か自由に隨ひて記されたるもの數種あり、希ふ望むらくは、此際益々吾黨主義に贊して御一讀の光榮を給わらんこと偏に願望す

(御注文の方々は郵劵代用にて宜しく候)

發行所 巢鴨村庚申塚 露草會

女學雜誌

第五百二號

明治三十二年十二月廿五日發兌

社説

年暮勵言

茲に一歳を終らんとするに瀕して、數多の心に浮ぶ國家的回顧は、不愉快の事ぞ多かるべし。議院にも、府會にも、政黨にも、官公大小の事業にも、只だ忌わしき醜聞のみを聽きたり。日々墮落、斯の如くんば、邦家の前途は如何に成り行く事ぞと、煩悶痛憤する人多かるべし。試ろみに、文筆の士に就て質せば、其辭慷慨、殆んど絶望の調あり。辨論の士に問へば、其語沈痛、大率ね如何んとも爲がたしと言へり。嗚呼、不吉、不祥、今の如く甚はだしきは、近代に於て未だ曾て有らざりし所也。

人あり此狀を以て余に迫り、切に吾黨の意見を問ふ。余は答えて曰く、憂ひざる也。否な、憂ひざるにあらず、疑がわざる也。何を以て、疑がわざる。但だ、事の新らしきものなく、情の怪しきものあるなきを以ての故なり。夫れ、斯の如きは、萬古常にあり、東西未だ奇しとするに足らず。人間もし恐懼せずんば、今日此の事なしとするも、明日直ちに其事あらん、不吉ある、憂ふるに足らず、戒愼せざるを以て憂いとす。噫、一代の腐敗何んかあらん、但だ腐敗に任ずるを以て憂ひとなす。故に、吾黨は、現代一時の墮落を見て、驚異せず、況んや絶望するとを爲さんや。墮落の人に奇しむとなし、但だ之に絶望せんとするものを惜しまんとす。

夫れ、近時一汎の腐敗なるものは、事大率ね錢の事に關す。何故に斯く急かに錢の故に腐敗せりやと言わば、戰勝の后、一朝機に投じ、俄然として暴富を爲したるものの末路に淵源す。彼等初めより錢を得ざりしならば幸ひならん。不幸にして一と度び錢を獲たり、故に投機の念増長し、失敗の傷亦擴

大したるのみ。方今世上の腐敗なるものは、要するに彼等が彌縫策に急なるより起る。彼等は其腹を保護せんが爲に、其背に傷つくるとを恐れず。暴横不埒なる收賄談は、概して此邊の切迫より由來したり。

左らば、時勢に醉ひて一時の夢にさまよひたる可憐の徒をのみ責むる莫れ。戰勝の爲に、勳位爵祿を賜はりたるもの、此の戰爭と其後の經營とを功となすもの丶輩は、主として今の腐敗の爲に責を負ふべきもの也。而して、彼等恬として自から耻ぢず、世人亦之を以て責めず、只だ滔々として末流の濁れるに歎ず。豈に卓論ならんや。

凡そ、新物の生ずるは必らず腐敗の後に於てす。麥先づ死せざれば、新らしき莖を抽くとなし、草先づ腐らざれば、大ひなる樹の育つとなし。人生の榮枯亦た之に類す。家破れて貞女あり、國亂れて英雄あり、人心腐敗の極に達して而して後ち、先覺、神仙を起す。左らば、其の生ずる所を獲んが爲に故さらに先つ國家人心の敗亂せんとを願はざるものと雖ども、一治一亂の勢亦た免かる可らず、既に已むとを得ずして現に痛痒すべき時代に際會し來らば、亦何んぞ機轉一變の福音に樂しみて、更らに大いに興奮するとをせざる。今の時の如きは、斷じて絶望すべき秋にあらざる也。

たとひ山岳の崩るるとも耿たる忠心は壓すへからす、たとひ一代皆な腐るとも、凛たる信念を如何んせんや。もし世を擧つて皆な非ならば、汝何すれぞ最後の唯一人として勇戰奮鬪せざる。古へより、たゞ一人の能く城を傾けたるものあるを聞く。故に亦た唯一人の能く國を興したるものあるを聞く。嗚呼、何んぞ人に依りて賴まん、自から信じて疑がわずんば、曉星すでに頭上に燦爛たるにあらずや。

觀すべし、何の國、何の世か、永久の隆盛あらんや。たとひ榮華の極みに達するも、奢るものは直ちに破れん、たとひ衰廢の極みに落つるものも、奮ふときは直ちに起らん。千古長久に存するは、只だ此の大道のみ。此の大道に立つもの、何をもつて絶望す。たゞ自暴自棄するものの外に、絶望すべき謂われあらず。

故に告ぐ、天下の烈士烈女。もし今の非なるに慨する所あらば、之によつて奮つて起て。もし未だ起つ可らずば、謹んで養ふ所あれ。亦何をか憂ひ、何をか悲しまん。嗚呼、一代の

腐敗稍や熟し、人心大に悲しめり。吾黨は之によつて救濟の機のいよ〳〵近づかんとするを知り、心密かに慶す。何んすれぞ悲聲を放つてたゞ徒らに哭することをせんや。

歳末獨嘯

◉心は常に明鏡止水の如くなるべけれども、志は烈火奔濤の如く、氣は長虹大河の如くなるべし。之を收むるとき、閑寂平靜ならんとは言ふ迄もなけれど、發しては万朶の櫻となり、激しては千丈の瀑とならざる可らず。靜と動と素と一致せずば、人生も面白くなし。

◉仙人とならば、大俗の心得はあるべし、聖人とならば、愚夫愚婦の情合を辨まふべし。知らぬ佛よりは、知つて佛となるを妙とす。

◉人は一大事に臨みて茶漬を喫する如くし、小事に接して戰々薄氷を履む如くする修行なければ、危ふひ哉。

◉月の明るく、海の靜けきを眺むる毎に、西郷先生、月照と相抱いて水に投ぜられしとの憶ひ出さるるかな。此心即わち

薩摩健兒に身を投與せられし心にて、後の吾輩等に至る迄が亦先生の爲に身を投出さんとする感激の種なり。或人は此事を評して馬鹿らしきことと言へり。又或人は此事をもて策なりとせり。同もに、なさけなき觀察かな。

◉クリスマスの祝式は、天の御子、聖座より降りて玉躰を人世に投げ與へられしとの感謝のためなり。此の御子亦た成長てのち、万國万民の爲めに身を殺されたり。

◉一切衆生の爲めに生命を與ふ。大慈大悲の御方は、其の情の切なる爲め、人を抱いて死せざるを得ず。

◉たゞ一人の友の爲めにても、たゞ一人の預り兒の爲めにても、わが生命を獻げ得ば、いかにうれしきことぞ。

◉嗚呼、政治。吁、商業。噫、戰爭。すべて亦た愛他の心掛より起るべき筈なれども、事の複雜し、道の遠廻りなるによりて、暫らく此の情と離るること多し。此の情を離れて只切りに苦心經營し、單に激烈なる爭鬪を、唯一の目的となさん間こそ人の心の苦しけれ。

◉左る掛引もなく、初めより只だ愛他の情を露出して差支へなく、其の情あること彌よ多きを以て可なりとする職務に任ず

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

る人は、最と幸福ならずや。僧侶、教師、先生なんどは、既に稀有の報酬を得たり。他に何をか求むるや。

◉博愛と、孤愛とは別物にあらず、一の情の現象なり。たゞ其の現わるゝや、近きより遠きに、小さきより大いなるに向つてゆく。目に見ゆる兄弟を愛せずして、如何で見ざる神を愛せんやと言へり。

◉生れて此の帝國の臣民となり、二千五百年の帝室を戴たゞく。君は數千年の君家なり、民は數千年の同胞なり、地は數千年の邦土なり。此國、此民、此の帝室の爲に、先つ最大絶頂の力を盡さずして、いかで心に安んずるを得るや。

◉維新の諸先輩。死なれたり。吾等が先生と崇むへき方々も死なれたり。愛國勤王の幾多の血も稍や乾かんとせり。一代もし逆境と言はゞ、いよ〳〵以て奮發努力せすんはある可らす。

◉究まれは通ず、爲ん方盡くる時即はち活路あり。人よ、決して望を失ふなかれ。望全たく絶えし時に初めて一大光明を見るものなり。最後に至るまで只信じて活動し、倒れて死せば吾血を以て遺志を書かんと思ふに、人生何れの時に失望あらん。

◉人に誤まられたり、人に嘲けられたり、人に棄られたりと言ひて歎きかこつ友よ。其の情のさびしきが故に若か言ふは尤ともながら、必らず絶望するなかれ。暫らく斯く思ふとも人は復ひ遠からずして吾を歡迎するものなり。吾のさびしき如く、彼もさびしきなり。人は永久相離るるものに非ず。

◉義憤、慷慨は、劣者が優者にいぢめらるる時に、勃然として發し、我知らす激氣激行するともあるものなれど、其事了れは亦何の恩怨かあらん。人は皆な吾が同胞なり。

◉年の暮になれば、甚はたしく錢の不足を感じ、誰も一旦は心細くなるものなり。此時、心太く心にぎやかになるは幸福の如けれど、斯くては多數の人に對する同情は感ぜられず。あわれむべき究里究卿の吉士を念へよ。

◉左り乍ら、準備なく、安心なきは可ならず。よく〳〵平生より心掛て、切めて一年の終を善くし、斯の如く亦た一生の終を克くする工夫こそしたきものなれ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

評論

當年一歲の回顧

山形東根

明治三十二年も將さに數日にして盡きんとす、此一年間に於て日本國民の抑も何にを爲したる乎。舊を送り新を迎えんとする歲晩に至れば、何人も多少の追想を試み、往事を顧みて感慨せさるはあらさるべし。往事茫々夢の如く、行程を點檢し去らば唯己れが微弱淺小爲すなきを嘆するは常なり。歲晩は實に懺悔の時期たり、不愉快の時期たり。然ども去るものは追ふべからず、唯懺悔の神に入り新たに理想を高め希望を大にし、以て新年を迎ふるの外はあらじ。余輩が今本年中の現象に就て其一二を記するは徒らに死兒の齡を數ふるにあらで聊か其歷史に顧みて新希望に資せんとするのみ。而して社會の出來事や多大且つ複雜なり、斯には其一部を記するに止む。

先づ政界に顧みて、特筆大書すべきは七月に於ける改正條約實施の一事たり、國民擧げて之を祝し、玆に歐米諸國と兎に角對等の地位に立てるは本年の大事件たるを失はず。先年は準備論各社會に喧ひすしかりしが、愈々實施となりては想像の設備をなせると云ふものから却て靜狀を呈し、雜居とならば多數の外人渡來すべしとの一部保守家の杞憂も空しく杞憂に止まり、外人は我國人の神經質にして輕妙に、利益を得るの餘地案外に少なきを嘆じて多くは支那に着眼し彼地に至るもの多々なるを致し、斯る外人渡來の利益を夢みたる開進家に對して失望せしめぬ。支那人雜居は之に附隨して一時最も喧傳せしが一部の制理を加へて止みたり、正に輕蔑しつゝ恐れたるものなり。進步黨は殆んと全く失意の地に陷りて、自由黨の專權を見、國民協會變名して帝國黨と稱し、藩閥內閣に謳歌しぬ、進步黨の失意はさるとながら彼は將さに大に伸びんとする運動を有せさるにあらず、自由黨に至りては其罪惡數ふべからず、三稅增加、歲費增加を始め多數を賴みて幾多の非道を行へり、帝國黨の國家社會主義、帝國主義亦之れ殆んと空名にして勢ひに媚びるものに過きさるか如し、其政敎を混合せんとしたる如き昧者の處置と稱して可なり。政黨界に立物となりたるは云ふまでもなく、星亭氏にして、尾崎、佐

々之に次ぐ、星氏は如何なる理想ありや吾れ之を知らずと雖も其行爲に顧みれば、汲々落日の觀を呈する蓋し遠きに非るべし。而かも氏の如く專權を逞ふせるもの近時稀有、誹謗百出、四面攻擊を受けたるもの又氏の如きは稀なり。

次に宗教界に顧みれば、巢鴨監獄教誨師の事件は昨年の餘焰未だ醒めさりしが、辭職轉任を見て爾來聞く所なし、狡猾なる所謂佛教有志家は、此事件を利用して餘程利得ありしならん、運動其物は彼等の愚物たるを表せしのみ。公認教運動は東本願寺の石川氏等の煽動に出づ、昨年來止むことなく、本年に入りては政教俱樂部となり、政教時報の發行となり、帝國黨と提携するあり、佛教法案を出すあり、大に力めたるか如し、昨今に至つては宗教法案の貴族院に提出さるゝや、又々火の手を擧げ來れり、世上識者は何人も之を賛せず、新聞紙は一齊に宗教法案の精神を是認し、之を多少修正するも、佛教團躰を公法人となし、公認的として特別保護を與ふるの謂はれなきを論せさるなし、府下新聞記者は此點に就て公平の見を吐きつゝあるは吾人の多とする所なり。佛教法案の決議と云ひ、公認運動と云ひ、殆んと常識を欠く所にして眞に事理に通せさるもの一笑に附して可なり。唯夫れ本派本願寺の超然として是等に與せず、佛教法案に反對し、公認運動に反對し、又今回の宗教法案の精神を是認して、彼等と提携を絕てる如き洞明ある處置と賞揚する價値あり。而して基督教界に於ては本年中、特に記すべき事件を見ず、又政黨者流の宗教に對する關係を見るに、進步黨の一部と帝國黨は佛教徒に加擔し、自由派の一部は基督教に加擔するもの多きは、本年に於て多少見受くる所、而かも自由黨の政界に於ける行動に至りては、我輩の大に非認する所、基督教徒に多少の關係ある如く見らるゝは寧ろ痛嘆すべきことなり、唯進步黨の保守に傾き、割合に自由黨の進步的なるは、聊か注意するに足る、帝國黨の佛教に關係せるは運動費の關係なりと云ふもあれど、兎に角、政教俱樂部の如きは彼等の係われる所なり。

次に教育界に顧みれば、文相攻擊、九州東北大學問題始め幾多の波瀾ありしが、特に喧ひしきは私立學校令の發布と宗教教育分離の訓令なりき。之に贊成せるは教育時論外二三の人にして新聞紙概ね之を非認し、學者中も反對者多かりし、基督教界は擧つて之を非認して其取消運動をもなせしが、結

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

局莫大の損を來せしのみなりき、之が爲めに私立小學の廢校を續出し、貧民敎育の設備をも欠く、無用の干渉を踐みたるの失政は一大欠點として特筆して可なり。次は社會敎育問題にして幾多の議論あり二三の質議書を出し。そが演說會を開くあり、又海外に於ける社會敎育設備の調査を托せる等の事あるも一般に未だ其等を悟らざるものすら多きが如し。漸く問題に接觸したるまでのものと云ふべし。學校系統問題は法科大學入學試驗に多數の落第者を出せりとの事、一の導火となり一層喧ひしきを致し、議會には學制調査會の設立を建議するあれば、敎育者間にも二三の會合を企てたるあり、刻下の大問題とする所は是れなり、然れども學制改革論者は一に官公立の系統を立てゝ之を一色の模型に鑄造し、全く私立の多角形なるを眼中に置かざる僻論多く、結局官立學校系統論と云ふべきも未だ國民の敎育に親切なるものと斷定すべからざるものあり。可成經濟的に多數の子弟が完全に敎育を受くるの設備は何人も欲する所なるも、今の學制論者の見る所の如くんば學校系統論は寧ろ厭ふべきものなり、高等學校を大學とし、大學を大學院として、官學臭味の學士を多出し、學閥を造るに便を與ふる如き彼等に取りては必要ならんも、國民は毫も難有からさるなり。全國の農工商業學校長會議の上女子の實業敎育問題に討議ありしは、聊か注目すべし。德育に至りては、議論紛々、實に滑稽に類せる計畫多く、殆んと五里霧中に在るの感あり。

次に經濟界に顧みれば、政治の中心は實に財政に集中し來りしが如く、最も複雜の問題を有せり、中にも注目されしは英國より一千万磅の外國公債を輸入せるとなり。トラスト論は未だ議論に過ぎざれども其論議は本年下半期に於て盛を致せり、財政困難は凡ての罪惡の根本を爲すが如く、政界の腐敗も風俗墜廢も殆んど皆經濟事情の伴はさるはなく、本年に於ける大事件は特に財政の心理の複雜にして之に注意するの一層切要なるを感せしめしが如し、政客の墮落は一に彼等が貧窮と財を得んとする慾望とより生じたるを知らしめたり。市街鐵道、橫濱埋立事件、公娼設置、歲費增加、議員買收、何れか現金に關せざるものある、財政心理の研究、財政整理の如く必要なるもの未だ之れあらずと云ふべし。

次に衛生上を顧みれば、賣藥の多く、其商人の增加せるは特

に注意を要する所、葡萄酒贋造事件、不正牛乳、不正ラムネの發賣禁止、製藥僞造の頻繁等は、實に公共の稚態を表するもの、理髪業者の消毒はさるとながら、不完全の消毒を口實として其賃錢の暴騰を來し、他に幾多の設備を顧みざる如き嘆ずべきものなり、赤痢は十万餘人を出して、殆んど一千万圓の損害を來し、最も恐るべき黑死病の來襲は天上天下をして驚殺せしめぬ、明治三十二年の衞生界は斯の如き不興の出來事のみ多きぞかし。

次に風紀問題に顧みれば、本年は公娼設置の流行を來せり、曩には名古屋、京都、岡山、岐阜等に於て遊廓移轉問題喧ひしかりしが、群馬縣には草刈知事と之に附隨せるもの、遊廓設置の運動に着手し、一旦止められて暫らく其音絶えしが當年のルーソー、中江兆民氏等昨今又々設置運動に狂奔し、栃木縣は十九ヶ所に新設の計畫ありて有志の反抗を受け、埼玉縣會は、縣費多額となれる今日、之を補ふ一に遊廓を設置して娼妓より稅金を取るの外あらじと信じて新設置を可決し、茨城縣又之に倣ふて設けんとす、關西には移轉論、關東には設置論、何等の愚ぞや、何等の醜ぞや。華族には犯罪者續出し其家庭漸く紊亂するや、宮相は婚姻に就ての論告書を出し、華族妻を取る須らく注意すべしと。以て其紊亂を戒むる所也。事切なりと雖も彼等何の顏色ありて社會に對する、名家に於ける殺人、詐僞取財等、眞相を洗ひ來れば家庭の紊亂に基き其紊亂は大概、夫婦正室に居らず、蓄妾を以て腐敗せるにあり、萬朝報の私生兒の父を暴露し、藝妓の弗箱を出せる記事其物を社會に出すの可否は暫らく措き、吾人は之によつて我社會上流人士の紊亂に驚かざるを得ざるなり。而も何等の痛痒をも彼等に感ぜしめざる如き、愈々以て怪とすべし。

八

次に勞働問題に顧みれば、勞働界には聊か注目すべきもの存せり、同盟罷工は一昨年及昨年の如きものならざるも、職工の團躰運動は見るべきもの存せり、政界の名士島田三郎君が專ら志を社會問題に注ぎ、自から活版工同志懇和會の會長となりて、活版職工を團結せしめ自治自活以て相互に親睦するに盡す如き、加藤博士を始め幾多有數學者等の活版工の組合組織に演說せる如き、從來職人風情と蔑視せる思想の稍減少し去りたるを表せずや、大阪には大井憲太郎氏、大日本勞働協會を設立し、周刊新聞を發行し、更らに小作條例期成

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

會を設立して、今や一二の支部を設けたる如き、之れ本年の新案たり、大坂紡績職工には不法の誘拐運動あり、東京には馬車鐵勞働者の同盟罷工計畫あり、横濱には市街鐵道反對の車夫暴動あり、何れも多少の効を奏したり、勞働界に注意すべきことの重もなるは是等たるべし。

其他の社會的問題を顧みれば、第一は婦人問題の繁昌せしことなり、兎に角之に依りて婦人道德の社會改良に力あることと、婦人に對する待遇の厚くすべきことを感せしめたるは疑ふべからざるが如し、素より其の實蹟を眼前に呈出し難きも暗々裡に感係せしめたるものあるは明かなり。次は社會改良論、社會制裁論、社會道德振作論の流行なり、何れの時か社會改良論あらざるべき、併しながら本年は政界墜落、風紀頽廢、現金主義の流行より社會墜落の聲高かりしかば、如何にして社會を改良すべきやとは盛んに議せられき、曰く社會の制裁緩慢たるが爲めなり、曰く社會敎育の設備なきが爲めなり、曰く家庭の紊亂せるが爲めなりと、或は士風の作興を呼び、或は社會運動の法案を論じ、或は會合を企つる等、兎に角社會改良なる聲は諸方に高かりしなり。次は罪惡暴露の利害、新道德の輸入、等なりき、穢多問題は一部人士外には聞えざりしも、今日現存する新平民は必ず之を改良して社會に近接せしむる要ありとは、微かながらも本年に於て最も能く發表されしが如し、新平民の社會改良も必ず今後の問題たらん、賤民救助會を設けて之が爲めに特性たるもの、生せんことは吾人の希望止まざる所なり、市街鐵道は東京市の一部に屬することながら其間に新發明の賄賂の市會に行はれ、工學者の曲學變説、市會の決議か三派株主の決議か不明瞭なる如き、議員の買收の如きを含みたれば意外の騷擾を來せり、横濱海岸埋立も地租案賛成と關係して議員買收の事跡ありし爲め又之れ意外の喧囂を來せり、遂に議員瀆職法案となり、官紀振肅上奏案問題となりて、幾多の醜事公にせらる、本年に於ける中央政界の醜状として永く國民の記憶に止まるべし。

次に慈善業に顧みれば岡山孤兒院の東京其他に運動せる如き曉星園主本郷氏の死去せる如き、留岡氏の家庭學校の今將に其建築落成せんとする如き、三好氏主任養育院感化部の建築同じく近々落成せんとする如き、原氏保護會の着々成效を奏せる如き皆注目すべきことたり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

次に外交界に顧みれば、青木外相は無能を以て擯斥せらるゝも依然其椅子にあり、東邦協會の支部問題調査會成立して着々其研究に着手する如き多とすべし、一部に限るも尙支那問題に着眼するものあるは吾人の慶賀措かざる所たり、自ら內治を顧みず自國の腐敗を外にして、輕々しく支那保安を喋々するは嗚呼の至りとするものあらんも、日本の政治は外交より制段すること肝要なれば、支那問題に着眼し、外交より內治の益を計るの道を處するは當を得たるものと云ふべし、唯だ言論區々として「斷」なきことを憾めしけれ、康有爲の空しく歸去せる、ヒリッピンの我臺灣に近きに拘らず、茫として見物するの外なく、西力の東漸、朝鮮問題の健忘、等數へ來れば痛恨の種ならざるはなし、又海外に於けるものにては、トランスバールと英國の戰爭は、英國人の不義不德を發表し、萬國平和會議は未だ世界に容易に平和を來すの遠きを示したり、其他國際海上會議の如き又注意すべき件たりしなり。

斯の如く回顧し來れば、明治三十二年の日本は、餘りに面白からさりしが如きも、其混亂は財政の困難重もなるは第一の原因にして、社會に重きを置きし割合に個人の修養を忘却し、己が良心の健否を問はずして互に他に依賴し、自治自活の獨愼的分子の缺乏せるもの第二の原因たるを認む、國を建つるの價はそも幾何ぞ、國民の理想低く、信仰淺く、官に依賴し官の干涉を望み、人の美を爲すことなく、黨鬪をなして互に財利に走る國民は決して廣大の盛運に向ふことを得さるものなり、吾人は過去を追想して泣言を吐くの愚なるを知る、唯過去に顧みて將來の師とする所に資せんのみ。余の本年に於て最も悲哀に感せしものは勝海舟翁の薨去なりき、今や天下人物を要求する聲多くして人互に信せず、黃金唯一の武器となれる今日、能く慮ひ能く散するは勿論、高潔にして偉大なる人物を見出し之に信じ之に據りて以て相互に正義に進まんことを期せさるべからず、義人一人あらば天下は救はるべし、空拳を握りて慷慨悲憤せんより吾人は徐ろに手近き所より、自己の良心より改革し行くの要を見ずんばあらず。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

歳末『死』観

青柳有美

死は眠るなり、永き眠なりとは、多くの人のいふ處にて、また誰人も思ふところなれば、人生のざわ〳〵しさに心疲らせ、徒に惱み悶へること優れたる人は、一たびこの寂滅に入りて、樂しみを爲さんかと、切りにあせりもがけども、死の、永き眠りの如しといふぞ、仲々に煩ひの種なんめる。死、果して眠りなる乎。然らば、ハムレットがいひけん如く、そのうちに夢なかるべからず。世には、夢にうなされて冷汗に浸かり、その身の哀れに瘠せ衰ふるまで、沈み入る人もあるものを。一時一夜の眠りならば、又その夢も長からず、しばし苦しまば、程なふ醒めもすべけれ、死もし永き眠ならば、その夢もまた覺めて消ゆるといふことなく、長久に續かざらめや。之れを想へば、あゝ死は、怖ろしともおそろし。誰れかよく、死後は人生に關りなしといふものぞ。聖人には夢なく、夢は五臟六腑の疲れとかや。惡業に罪かされし儕輩は、淺ましきことのみ眠りのうちに浮かめて、しきりに猛けり或ふと聞く。また醒めたる間に、不消化のもの食ひ、將た大食などして、そのまゝ床につけば、眠りのうちの心地惡しさ、一段なりとぞ。今生に大恩教主の月を眺めずして、如何に涅槃に爲樂するを得べき。後生とは、唯だ我が世の末に近けるとのみ。況んや、天地の善神を以てして、歳月の流るゝところを觀じ給へば、千年も過ぐる昨日の如く、また夜の間の一ときにおなじきに於てをや。淺墓なる地上の人よ、門松の冥道の旅びの一里塚なるを知らば、死は眠りの如しとて、輕ろんじ給ふ勿れ、死は眠りの如き故却て人生は夫れ愼んで善業を積むべきものなり。誰か愴じきまでうなされて、惡夢に襲はるゝを快しといふものぞ人よ、後生に極樂の夢結ばん心せよ。」

また思へば、人の逝くは、なほ其遺體の、火に遇ふて茶毘の煙と上るが如し。凡て煙りは其形ち曖昧として天に消ゆるなり。然れども其存在を失へるものに非るは、人之れを知る。死とは、假令へば火の如きものなり。このもの一たび人生に觸るれば、人茲に激甚なる化學作用を受けて、忽ちに分解し、何物かは出でゝ煙の如く天に沖す。世間之を稱んで魂魄といふ。而して、死體は乃ち止まりて地に殘る、なほ灰の殘され

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

たるにも彷彿たり。灰は、人之を集めて消壺に入れ、遺骸は、人之を棺にをさめて洞に葬る。煙とは若したゞ物の態を變ぜるのみにして、遂に亡ぶることなきものならんには、人の魂魄、豈に空に歸すべけんや。淺墓なる地上の人よ、人生の煙の如く消ふべしといふに欺かれ、善業に我が今生を飾るを惰る勿れ。暫く思へ、白檀乳香を薰ずれば如何に香ひ、汚物塵埃を燃ずれば、如何に煙るかと。乳香と柏丹とは、馥郁たる香氣を四方八面に放てど、汚物と塵埃とは、紛々として其臭氣鼻を衝くに非ずや。乳香柏丹は祭壇を淸らかにし、汚物塵埃は人をして嫌厭の情に堪えざらしむ。我が今生もし香物の如くならば、之れより出でゝ天に上るもの、又香物の如く美はしき香ひあるべく、我が今生もし塵の如く穢れたらば、汚臭鼻を衝くの魂魄、それ之れより出でんか。人生は、かく煙の如くにして消ゆる故却て、それ愼んで善業を積むべきものなり。誰か諸人に厭はるゝまでの臭き煙り出して、快しといふものぞ。人よ、後生に良き香ひ放たん心せよ。

また、死は今生より後生に遷る一大關門にして、之れを譬ふれば、學生の試驗の如し。しかも定期の試驗ならずして、その來るや、盜人の夜來るが如く、卒然として行はるゝ臨時試驗の如し。則ち今生の小學より、後生の大學に入るの大試驗なり。人は考試を受くるの要なくんば、遊惰肆に樂まんとする橫着なる動物なるを。人生の眞意は、勞苦にあり修練にあれども、もし何れの時に、何物かの來りて其成蹟を調査考定すべしといふに非ずんば、好んで勞を自らし苦難に我れを磨かざるべし。是に於てか、死は嚴として總ての人に臨むなり。曰く、我れ爾曹を試みて査定せんと。然れども、その來るや、必ず期あり五十年にして逝き、七十年にして斃れ、將た廿年にして死するものならば、人間の無情にして橫着なる、恰もかの學校生が、僅に試業の期に近ひて、周章狼狽勤學これ勵む如く、漸く死期の迫まる時に於てのみ、修練これつとめて相止むに至らんか。しかはあれど、人をして常に活動し絶えず善業に親ましめんとするは、我が善神の御意なり。これを、死の臨時試驗の如く、卒然として來り、忽然として臨む所因なりとす。されば、人たらんものは、忠實なる學生の如く、終始我がなすところに勵苦して、しばしの油斷あるべからず。淺墓なる地上の人よ、人間の明

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

日死すべしといふに惑はされて、人生を酒池肉林に遊ぶべきものなりとなす勿れ。死は今來り、明日來るべきもの故却て人生は夫れ愼んで善業を積むべきものなり。誰か學級の末席に列なりて快しといふものぞ。人よ、後生の大學に上座を占めん心せよ。」また、人生の一事一行を以て、後生に關はるところなしといふも、上なきの愚見なり。時間は空間の限なきが如く夫れ限なく、大極に通じ無極に通ふものなるは素よりなり。些々たる人の一生、この間に立ちて一釐毫にも如かず、況んや其一言と一行をや。然れども、我れこの地上に立ちて一擧手一噴咳すれば、これによりて波動は空氣に起るべく、その地球周圍氣の波動は遂に大陽系の總てに及び、延びて宇宙の組織に變動し、無限の空間も又我が塵の如き人間の一擧手一投足に動かさるゝに至るなり。こは三宅雪嶺先生の説を祖述せるものなれども、時間のこと又之れに等しく、この束の間に如かざる人生の一事件の、遂に無限の時間に影響することと明かなるは、敢て言を待つの要なかるべし。今生に於ける一言一行は、それ此くの如くにして、後生に及ぼすところ大いなり。怖れざるべけんや。今生も後生も皆な連らなれる空間の如きに過ぎざるを。死とは、たゞこの間を界せる障壁のみ。これによりて人生の振動は、遂に廢めらるべきものに非ず。淺墓なる地上の人よ、人生の淡くして短きものなりといふに驚かされて、今生に活舞活動するを物うく思ふ勿れ。人生は短かきものなる故、それ力め愼んで善業を積むべきものなり。誰れか、我が腕の力に、無限を振動せしむること大なるを、欲せざるものやある。人よ、後生に良き響を殘さんための心せよ。

觀じ來れば、歳は今や末に近かし。これ、時間が一轉化を試むるの機なり。この時に際して、時間の大問題たる死を想思熟察す、又妙可ならずや。則ちこの篇を草して、十方世界の善心に訴ふ。昔は大師、新春を迎へて萬人の狂喜狂奔するを觀、慈悲不愍の御心や兆し給ひけん、靜に警めて宣はく、

門松や冥途の旅びの一里塚

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

亞米利加だより

北米紀行（第二回）

櫻井鷗村（於桑港府近郊里）

◎桑港の日本婦人

桑港に滞在する日本人三千人餘を以て算し、カリフォルニア州に散在せるものを合すれば、一万に近き數なるべし。然るに其中、女子の數は至つて尠し。桑港市内の七八十人餘の日本醜業婦の外には、正金銀行支店主任東京汽船會社支店長及領事館書記生の細君の外に、少數の土着の形にて職業を執れる者の妻又娘の少數あるのみ。學生としては、留學せるものは近郊のミルス、女子大學に在る四人の女子の外には皆無の態なり。尤も、父母と共に此地にある年少女子にして、公立學校に通學せるものは數人あり。

最初は多大の希望を齎し來りて桑港に在る間に、次第に墮落（勿論始より墮落失敗して此地に遁亡の狀なるものも多し）失敗して、仕末に了へぬ者となるもの多き日本人の中にも、其妻を同伴せるものは、一躰に可成の商業に在り付きて、其儘落付きて勉强せば、次第に金儲をなすべしと思はるゝなり。在桑港日本人の腐敗せるは、其原因の不潔なる婦人多しと雖も、善良なる婦人の其間に甚だしく欠けたるに在ると多し。また彼等の禮讓を欠きて、粗野なるも、婦人といふ和ぐる分子の無きが故に、何事をなすにも無責任なるに起因するものと知らる。女子を伴はざる殖民は必ず失敗を以て了るとの事は、桑港に於て其實證を見るべし。

◎婦人ホーム

桑港日本人の團躰は、其數頗る多しと雖も、婦人の爲には唯一あるのみ。即ちハリス博士の管下に在りて、日本人養育會に附屬する婦人ホームこれなり。其創設は殆ど十年以前に在る由。初めハリス博士と當時の在勤領事及書記生等相議りて、渡來の醜業婦の上陸を制し、また誘拐せられたる年少女子を救ふ爲の必要より起りしものゝ由にて、今日にても、さる事件の起るあれば、領事館は、必ずや此婦人ホームの助力を假らざるべからずとす。ホームは其名の如くに、寄宿舍

の形にて、人の妻を預り、夫婦の同居を許し、また留學女生の宿元となり、或は働き口の世話をなし、また在留一部婦人のクラブともなりて、時に集合をなすとあり。監督者ありて、都て此等の事に任ず。今の監督者は青山女學院の出身なる笠原夫人なり。

在桑港日本人の爲には、この婦人ホームの如きは、甚だ必要なる一機關なり。多數の日本人の此地に來りて、結果なき勞働をなして、身を破滅するを救はんが爲には、多くの婦人の渡來するもの無くんばあらず。然るに於ては、このホームの必要は、いよ〳〵增加し來るべきなり。而してホームの過去現在の事業とまた將來の希望とに就きては、多年之に關係ある某氏自から之を記し、予等を介して本國の婦人社會に告げ、其注意と賛助とを仰ぐの約あり。故に爰には單に其槪事を紹介するに止めて、讀者と後日を期す。

◎ミルス女子大學

アレガニー山脉以西唯一の女子大學なりと稱せらるゝは、此ミルス女子大學なり。Mills collega and Seminary と名く。桑港灣の東、アラメダ郡セミナリーパークに在り。同大學の歷史を聞くに、由來神學博士ミルス夫妻なるもの、この太平洋海岸に於て、マウントホリヨーク女子大學其他の主義に隨ひ、基督敎主義の女子敎育を施さんと欲して、其初め、ヘニシアと名くる地に一女學校を開きて、之に從事すると七年なりしが、之を他の便宜多き地に移して、其基礎を永遠に鞏固ならしめんと欲し、爰に同志者の助力を得て、今の地を卜し、千八百七十年建築の功を起して、翌年即ち七十一年八月一日、ミルス、セミナリー即ち一個の高等女學校として開校したり。後千八百八十五年に至りて、カレーヂ科を增設し、カリフオルニア州政府の許可を得て。卒業生にB.L.B.Aの二學位を附與するの權を得たり。ミルス博士は千八百八十四年に物故し、未亡人スザン、エル、ミルス夫人七十の高齡を以て、此が校長たり。

學校の財産は、十六人の理事者ありて、之を保護す。敎育は二十人の敎師あり之に任ず、其中男敎師二人あり。附屬音樂學校には、九人の敎師を有す。主任はピアノ專門家の一獨乙人なり。學生は總計百五十七人にして、内カレーヂ科二十一

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

人、同豫備生一人、セミナリー八十二人、小學科生三十六人、級別なき學生十七人なり。卒業生は、千八百六十六年ペニシア女學校以來セミナリー科にて四百八十八人、內死亡者三十四人、結婚者三百二十一人、寡婦となりたる者十八人なり。またカレーヂ部にては二十九人內結婚者八人なり。また B.L. (Bachelor of Letters) の學位を有するもの二十二人 A. B. (Bachelor of Arts) の學位を有せるもの七人、M. D. (Doctor of medicine) の學位を兼有するもの一人、M. A. (Master of Arts) を兼有するもの一人なり。兼有學位はいづれも之を他校に受けたるものなり。以上の諸統計は、昨年度の報告に基きて勘算したるものなれば、現在とは、其數を異にすべけれども、なほ以て概況を知るに足る。又其學生多分は、カリフオルニア及び近傍諸州より來れるものにして、稀には東部諸州の內より來れるものもあり。

ミルス夫人はマウント、ホリヨーク女子大學の卒業生にして、同校創立者として米國女子高等敎育の開祖なるメリーライオン女史の許に敎を受け、其感化によりて、身を女生の敎育に投ずるに至しなり。敎師の多數も亦彼女子大學の卒業生なり。

ミルス大學は、カレーヂ部を有するに止まりて、未だ研究部を有せず。學位も二種の Bachelor (バチエラー) を授與するのみ、生徒の多數はまた我國の高等女學校とも稱すべきセミナリー部に在り、剩へ小學科生もあり。故に大學としては甚だ微々たるものと評すべし。カレーヂにては生徒二種に分れ、其一は希臘羅馬の古文を多く學ぶ科程に就きて A. B の候補生たるもの、他は佛語、獨乙語の近世語を多く學ぶ科程に就きて、B.L. の候補生たるものなり。而して、一週授業時間平均十六時間、一ケ年授業日數四十週、四ケ年間の修業をなしたるもの、また之に同等なるものに、學位を授與す。A. B. の候補科は四ケ年に、

希臘語、羅甸語、修辭學、英文學史、高等代數、三角術、立方幾何、歷史、化學、十九世紀史、植物學、地質學、戲曲史、聖書、美術史、シエクスピヤ研究、佛語若くは獨逸語、心理學、經濟學、天文學、聖書、倫理學、有神論、生物學、

等を規定科として修め、B.L. の候補科は、

羅甸語、佛語、獨逸語、高等代數、英文學史、修辭學、立

方幾何、化學、三角術、歷史、十九世紀文學、植物學、古代文學、地質學、戯曲史、聖書、十九世紀史、シエクスピヤ研究、心理學、經濟學、天文學、倫理學、有神論、生物學、

を規定科とし、而して二候補科と共に、規定科の外に、羅甸語、希臘語、佛語、獨逸語、數學、英文學史、修辭學、歷史、敎育學、科學、

の内に就きて撰修するを要す。

米國女子大學の科程に就きては、後日、ブリンモア女子大學其他につきて記載する際に、詳細に説明するを可とす。扨て又セミナリー部の敎育は、日本今日の女子敎育の程度に匹敵するものなれば、參考の價値あるにより、ミルス、セミナリー部の三分科即ち古文科、文科、理科の内古文科の各級敎授綱目を擧げて、敎育の大要を示す。

セミナリー部

古文科

◎一年生

前後半期共　一週授業日數十五時

羅甸語(五時間)　代數(同上)　英語(同上)

◎二年生

前半期　一週授業時間十八時

羅甸語(五時間)　代數(四時間)　英語(五時間)　希臘史(四時間)

後半期　一週授業時間十九時

羅甸語(五時間)　希臘語(四時間)　幾何(五時間)　英語(五時間)

◎三年生

前半期　一週授業時間十九時

羅甸語(五時間)　希臘語(五時間)　幾何學(四時間)　物理學(四時間)　聖書(一時間)

後半期　一週授業時間十九時

羅甸語(五時間)　希臘語(五時間)　物理學(四時間)　羅馬史(四時間)　聖書(一時間)

◎四年生

前半期　一週授業時間十三時

羅甸語(四時間)　希臘語(五時間)　心理學(三時間)　聖書(一時間)

後半期　一週授業時間十七時

羅甸語(四時間)　希臘語(四時間)　行政法(四時間)　倫理學及有神論(四時間)　聖書(一時間)

而して文科にては希臘語を授けざる代に、古文科よりも、植物學、古代文學史、美術史、近世史、中世史、の五科を增加し、而して英語に重きを置き理科にては、羅甸

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

希臘兩語を欠き、古文科課目の他に、化學、佛語もしくは、獨逸語、高等數學若くは中世史または近世史、等を授く。而して卒業生は加洲の諸大學に入校し得らるゝの聯絡あり。これを通覽するに、科目の少數にして且つ單純なると、我國高等女學校の雜多なるの比に非ず。教授科目は智囊開發のみを旨として、他に躰育、德育は又別に備はれり。然れども手藝に至つては、少しも之を教ふると無し。米國の女子教育にては、下初等及、高等普通の學校より上、大學に至るまで、女の手藝など唱ふるものを教ふると無し。さる類のものを學ばんと欲せば、別に手藝學校、料理學校、音樂教師等に就くを要とす。

ミルス女子大學は、生徒を寄宿せしめて、之を家族的に教育するを首にし、生徒取締方抔も、嚴然として備はり、教師同宿して監督の任に當れり。米國は男女自由交際の國とは云へども、此校にては、父兄の紹介なき男子に面會することを許さず。教師に伴はるゝとなくして校外に出つると能はざるの規則なり。

次に學資金に就ていはん。普通科には授業料なし。室料、食料、點燈料、煖爐料、洗濯代等を合して一期百八十弗、即ち一年三百六十弗を要す。音樂を學ぶものは、ピアノ一學期百弗、六十弗、五十弗（教師によりて等差あり）、ヴイヲリン一學期七十五弗、獨唱六十弗、合唱十弗等なり。此他になほ多少の雜費を要す。

此學校は基本金に乏しきを以て、万事の整頓を欠くと雖も、なほ數棟の講堂、洗濯處、瓦斯製造處等を有し、土地は頗る閑靜にして百二十エーカーの廣きあり。次弟に發達せば、優に良好の大學となるを得べし。

此校に學びたる日本婦人は、其數尠きに非されとも未だ一人の成業したるもの無し。現在するものは、四人にして、内今村繁子（土佐高岡）は明年を以てB.L.の學位を受くべく、松田幸子（同志社女學校出身）は昨年末より來りて音樂を專修す。他の二人長谷川クマ子、西川カメ子（女子高等師範學校出身）は英語研究中なり。一躰に日本人の輕蔑せらるゝ地方の事なれば、此等女生も、東部の學校に在るものゝ如くに、諸女生の間に、持て囃さるゝ事無し。

此學校に學ふものは、一躰に貴族的（貴族的の文字は米國人に不似合なりとせば、金持的）なりとの評、外人の間に在り。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

隨感

○心外無別法の情義

心外別法なしと言ふとを聞けば、唯心論の是否を評するとに拘つらひて、言意の實際の情を味わわず、則はち只だ空論に流れて他の經驗の所得を領畧し得ざるぞ、殘り惜しけれ。人よ、顧りみて己が經過せし事故の成敗を念ひ、又つく〴〵と世の人事の榮枯に鑑みて切に禍福の岐るゝ所以を考究せよ、詮ずるに是れ心外無別法にはあらずや。富んで苦しむものあり、貧しくして樂しむものあり、得て憂ふるものもあり、失なつて悅こぶものあり、若しくは特更らに陷穽に落るもの、自縄自縛するもの、激して而して獨立するもの、悲しんで而して平安に入るもの、惣べて心中自造化の現象にあらざるなし、今ま歲末に瀕して一年の算を決し、審らかに成敗利鈍の跡を調査して、其の出來榮の我心の故に由來せしとを頓悟せざるものありや。もしいつ迄も〳〵只だ人を責むるとを知りて、毫も自から責めざるものあらば、其の人は不幸なる哉、遂に要領に入ると能わじ。たとひ世は廣く、人は多くして、万事我意の如くならざるとを知ると云ふと雖も、我力の及ぶべき限りに於ては、皆これ我力の所作の影響にあらざるなし、遂に歸して我一心の責任とならざるものあらんや。如斯く觀じ去つて則はち心外別法なしと悟り、以て偏えに我心を責む、我心ために警發して一段の進步を爲ば、これ無上の幸福なり、亦何んぞ身肉耳口の喜こびをもて事とせんや。此に於てか知る、此の訓示を垂れたるものの敎義極めて、切實なるとを。人よ、たゞ一片の哲學論題として冷やかに看過する莫れ。

○年配三等段

人の老少は必らずしも年を以て算ふべからず、寧ろ其の自から覺る感格をもてす。此の感格に三樣の等段あり。曰く、自から子供なりと覺る時、自から若かしと覺る時、自から老ひたりと覺る時、即わち是れなり。其の子供なりと覺る區域に於て學問は上達す。其の若かしと覺る時代に於て創業の事務

は進歩す。其の老ひたりと覺る年に入りて初めて守成の事務は沈着す。而して、此三樣の感格を年齡に配する時、人により、時勢により、國によりて、其の年配を異にす。自から撿して英氣を省りみ、他に推當て勢ひを察する場合など、もし此の標準によりて吟味する時は、當らずとも遠からず。

○早老の隱因

百まで踴りの休まざるは、雀にして人にあらず。一生、匍匐して直行せざるは、たゞ蝮蛇の類これを能くす。人や夫れ相應の身の處置なくんばある可らず。然れど、餘りに早く老ひて英氣の沈衰するは、必らず一事面白からぬ心の兆ざしたればなり。其の心何ものぞと問ふ人あらば、覺えあらん輩ぞ暫らく默想自反すべし。如何なる時か、是れ英氣沮喪したる。必らずしも失敗の時にあらじ、失敗によりて彌よ奮ふと屢ば之れあり。必らずしも不如意の時にあらじ、不如意これ慨然自立するの機端となれるは度々なればなり。左らば英氣沮喪老の速かに來る一大元因は、何者ぞ。他なし、我身の事に專心し、我身の行末を案じ出せる時ぞ、即はち其の冐頭なり。

抑そも世上慷慨の士少なからず、凜たる氣品秀拔して、天才焰と同もに燃え上りしほどの一人物も、數年ならず俄然凋落して昔年の意氣なく、鬢髮未だ白からざるに、紅氣既に眉宇の間より脫落し去りたるもの多くあり。密かに其由所を考ふる時は、たゞ『我身をかばはんとする思』の現われ初めしが故なり。此心一と度び兆せば、氣既に守成に傾むく、何んぞ老せざるを得んや。大凡そ、天地高明の道は、自から開き自から棄て、毫も惜むことなし。故に、正大献牲の氣熱するとき尤とも能く其の秘機を探ることを得。苟しくも自から私して獨り益せんとするに至る時は、天地も亦た胸襟を閉ぢんとするなり。我身をかばひ初めてより頓に高明の理に暗らく、不思議に玄妙の機に後るる所以、亦た此邊の消息による。人才凋落、英氣沮敗、一代の花役者少焉くにして顏色なき所以の理深く此邊に存することを覺るべし。

○我心席にあらず

我心席にあらず卷くべからず、我心石にあらず轉ばすべからず、我心水にあらず流すべからず、我心煙にあらず消すべか

らず、假令ひ若し大山の崩るるとも、我心を壓迫することを得る乎。假令ひ若し王公の鞭をもて之を打ち、縄をもて之を縛り、劍をもて之を貫ぬかんとするも、能くせんや。左らば、我心自から棄てざる限り何人にも棄らる可きにあらず、人之を棄てたりとも我に影響なし。我心自から固く信ずる限り、人いかに何を爲すとも、我に何の損益ありや。我心は我の友なり、我信は我心の友なり。もし此の一大安心と離れずば、天下行く所として何をか恐れん、何をか怖れん。

○路上憫れむべき老者

寒風膚をつんざき、冷雨頭べに垂れ、手足こゞえて自由ならず。此時出でて街衢を行くに、叱咤して車馬を追ふ嚴めしき人の馬の足に泥土を蹴上げられつつ、よぼ〳〵として震るえながら行く可憐の人よ。御身等が身を果敢なみ、心を落して、哀れに悲しく思ひ玉ふ心に對して、慷慨激越の言葉は吐かじ。只但だ御身等すでに氣を落して自から老ひたりと感じ玉ふに、吾等の尚ほ壯んなるこそ仕合せなれ。吾等壯心あらん限り之を御身等が爲に献ぜずして可ならんや。待てよ、我友。吾等をして倒れて而して后ち休む迄で盡瘁せしめよ。

○夢　物　語

夢こそ奇しけれ。夢のうちに最と鮮やかに見たるとも、覺めて后ち朦朧たり。否な、覺めし途端には尚ほ鮮やかにて、まだ存ることの樣に手もて探ることなどあるに、やう〳〵にして其姿も全く消え、其かほりも悉とく失せゆくなど、中々にうらめしきものなれ。我思ふ人、我慕ふ人などに對して屢は此の出來事ありて、悦喜失望たび〳〵なる我に於て、就中最と鮮やかに見て、今も尚ほ心の躍るばかり感覺せらるる不思議の夢を見たり。其の理もとより不可思議にあらず、たゞ之を夢に見て自から切に感ぜしことを怪しとするなり。もし之を我讀者に告げば、讀者は其餘りに幼稚なるに笑ひ玉はんとすれど、わが感覺の上に常ならず感ぜしことゆへ、記し置きて他日の一笑とせん歟。或夜、余は忽然として一つの事理を夢みたるに、其理光明の如く燿やけり。曰く、古來我國に海外の物質文明を尤とも多く輸入したるは宗教家なり。其宗教家の能く之を輸入せしゆゑんは、其身僧躰を棄てず、自己の利とせ

[illegible]

○言 志 [illegible]

[illegible]

之れ[illegible]

自立するの機端となれる[illegible]

老の速かに來る一大元因は、何者ぞ[illegible]其の[illegible]

[illegible]

○衆心[illegible]

衆心[illegible]べからず、衆心[illegible]すべからず、衆心[illegible]すべか[illegible]

[illegible]

[illegible]に出して後ち休む迄で盡痒せしめよ。

○夢の話

[illegible]に見たるとも、覺め[illegible]

[illegible]鮮やかにて、ま[illegible]

[illegible]やう〳〵にして[illegible]

[illegible]中々に[illegible]

[illegible]

○[illegible]

[illegible]

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ざりしに因る。彼等もし自から益せんとするか、彼等自から事業家となりしか、此如く速やかに文明を輸入すると能はざりしならん。彼等は僧なりき、故に俗を輸入し得たりと。此理太はだ平凡なり、覺めたる人にとりては更らに平凡ならん。左れど余は此の一大光明に打たれ、覺めて枕を叩いて立てり。而して后ち全たく夢さめて稍や愚ろかしきとに笑ひつれど、此時心に打れし激感は、今ま思出してだに尚ほ心動くを覺ゆ。記るして本年の夢物語となす。

○外資輸入

昔し佛法僧の行わるるに尾して我國に諸種の文明の入り來りしとを言ふ人あれど、更に其の裏面に外資輸入の實ありしとを說きたる人は稀なり。左れど、余は確かに其關係の密切なりしとを察知す。什器、機械などの輸入は申すに及ばず、工藝、建築、開拓などの技師及び費用は、釋氏の徒の手を經て初めて大いに輸入せられたるとを覺らざる可らず。而して、如今外資輸入を說く人の未だ此邊に思ひ付かざるは少しく拙なりとす。現に今日に至る迄すら、晩近我國に對して外資の輸入せられたるは、大抵宣敎師に關係せざるものなきにあらずや。

○內資輸出

情けなしと言わんか、將た經濟の理法と言わんか。我國の文明の開くる、主として外資輸入に待たんとするもの古今一徹なることそ殘念なれ。貸さんとて我國より內資輸出したるは、朝鮮に對する外未だ曾て聞かず。吁、後進國の常とは言へ、立國の年代は久しからざるにあらず。槪して貯蓄心乏しく、資本を造る心得の薄きによつて、則わち如斯しとせば、同胞通じて警しめざるを得ざるにあらずや。

○敎旨等々段

救世の慈悲、敎祖の胸にたゝえられ、未だ激して發せず、湛焉として玄存し、敎祖、微笑して獨り樂しみ玉わん時ぞ、未だ宗敎々義の名はあらざるなり。此時を敎旨の玄妙となす。慈心一と度び動き、金口大に開き、宣して八千の法話となり、弟子傳へて敎義となし、門徒信じて宗旨となす時、即はち初めて宗敎、宗派の名あり。此時を敎旨の活動となす。后ち

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

門徒大に加わり、勢ひ盛んに張り、國家之を尊重して則わち公認す。所云ゆる公認教あるの時や、むしろ教育の固定、衰運すでに兆するの機なり。夫れ、公認教を希望するものは多し、其初めを思ふものは少なし。其初めを思ふものさへ、其の初め未だ現われざりし言語を念ずるは稀なり。

○夜々語るの靈心を追ふ

夜、ひとり目覺めて、戸外に騒がしき風の音をきく。心耳の澄みたる時、ハラ〳〵と音して、戸を叩くやうに覺ゆる時、夢に語る靈心の追ひ來しやと感ずれば、世にすでに靈界に入れぬ。わが心の清みたる哉。

○獨り樂むの途は多し

我思ふの自由なるに感謝す、翼なくして何處の果にも遊ぶ。我無心のたのしさに滿足す、見ずして思ひ、接わらずして親しむ。更に文字の有情にして能く我が心に伴ふを謝す。汝に告白し、汝に記載し、汝に秘のことをうつし、かくて汝の同情によりて慰藉す。あゝ人世獨り樂しむの途は多し。

雜録

海舟先生高談（前号の續）

（續海舟餘波。禁轉載）

◉エー、コチラの塾かエ。皆な、砲術などを習ふと言つて來たのだが、世話しくて教へるとは出來なかつたよ。初めは、クラムマチカ(文典)などを半分位、教へたともあつたがナ。ナニ、一分づゝもつて來ると言ふのだが、もつて來たものは少ないよ。

◉其頃は、どふしても出ないと言つて、出なかつたものだ。諸藩から、大砲の製作を頼まれてナ、大そうこさへたよ。十二斤の野戰砲一つこさへると、六百兩もかゝるが。スルト、三百兩位、禮をとるのが、常だつた。築地の川口で、増田と云ふがあつて、二軒の内の一軒にさせたのだが、誰やらから の頼みで、三つこさへさした時に、六百兩包んでもつて來たから、突返して、ひどくいぢめてやつた。三日ほど、すつたもんだして、人が這入つて、あやまつて、漸やく又させた。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

幕府では、勝が大砲をこさへて、大相、金を取ると云ふ嫌疑で、隠密が這入つて居たのだが、之でビックリして、「何んだか、餘程變な氣違ひだ」と言つて、夫から信ぜられた。

◉神奈川の台場も、松山藩のもちで、こさへたのだが、ワシが圖を引いた。八万兩もかゝると云ふのを、四万兩でこさへた。『馬だけ貸して下さい』と言つて、毎日、乗切つて行つた。何も入費が、かゝらしなかつた。キタない、小さな家に居つて、夫で金を取らないものだから、餘程、變な奴だと思はれて居たらしいよ。

◉ダカラ、阿部なども信じて居つたものと見へて、下からは色々に言ふだらふが、マア不思議に追拂われずに濟んだのサ。夫から江戸へ歸つて、(長崎から)軍艦奉行などゝ云ふものになつたのサ。

◉外國から船が來ると、長崎へ寄つて、出島の和蘭陀領事館へより、日本の形勢を尋ねるのが、通例であつた。スルト、敎師もワシと、一所にテーブルに呼ばれるヿになつて居た。夫だから、極懇意で、向ふも日本の形勢をワシに一々尋ねた。そう云ふ工合だから、船が來る度に、『今度の用向はこふ云ふ譯だ』と云ふヿを、飛脚で、江戸へ言つてよこす。昔の事だから、急いでも五日もかゝつたよ。スルト、阿部から、「夫は困るから、何とか變へてくれ」などゝ頼んでよこすヿもあつた。ソレデ、話しにして、『アナタ方、今度そう云ふヿを談判なすつた所が、江戸の奴等には、迚も分りません、モット先にしなすつたら、どうです』などゝ、儀式ばらずに言ふと、向ふでも「夫じヤア、そうしませう」などゝ言つて、やめたこともあるよ。ソンナ工合で、ワシは大そう必要な人になつた。

◉魯士亞の船が、セバストポールから來た、アノ時サ。大そう船を痛めて。ダガ、日本は中立だから、入れて直すヿも出來ない。魯士亞人が困つて、「どうしませう」と言ふから、『夫は、私にお任せなさい、やつて見せる』と言つて、奉行にそう言つた。『魯士亞のコワレ船が來たから、幸ひの試驗に、ワシが一つ叩きこわして見ませう』と言つて、夫から天草邊から木を切り出して、修繕してやつた。魯士亞人は大相喜んだよ。

◉そう云ふ工合で、夫から後も、西洋人の方とは、極懇意になつたよ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

罸を熱海の

さまよひ日記　《其七。大尾》

悪魔の子　有美

この小田原と國府津の邊こそ、仲々に怪しきところにて、往き來ふ人々の、道通るを見れば、かの腫物、またひッつりなどいふ醜き痕あるもの多く、凡て女は輝きたるところなくて、皆な奇しく淀み勝ちの面持ちせるものゝみなるぞ、うたてけれ。之を譬へば、我が國府津にて宿とりし富士見屋に就ていふも、下女の一人は、手と顔一面に水腫の如きもの吹き脹し、いま一人は、右の頰に刀痕の如き患部あり。加之この家の女主人さへ、同じく顔におかしきひッつり出かし、二人の娘のうちにても、年長けたるは腫物を脹し、幼きは眼瞼のほとり怪しく、おかんぺいの如き様して、家中の女にて一人も皮膚の患らひなきはなかりき。之れを察するに、この地方淫風頗る火の手強く、満市殆んど貸坐敷の觀ある小田原を中心とし、花柳毒四方に蔓延して、かくは多くの皮膚病患者を出すものならめ。また小田原にて殊に眼につくは、所謂トタン葺と稱ふるアイヤンルーフの屋根多きことにて、又一種の新工夫なり。これもハンケチの邊縫ひなどゝ共に、横濱わたりよりの輸入なるべし。

人も知る如く、小田原より熱海までは、東海居士の御言葉借るゝにあらねど、日本唯一の人車鐵道といふ珍らしきものあり。名けて『人車』といへど、人の力にて絶えず押しゆくものにあらず、かの自動鐵道などの如く、坂の上下高低の勾配あるを利用し、自らの力に、車を動かすにて、たゞ時折り高き勾配ある坂の所のみ、人の押しもて上らすなり。その上等車の構造は大臣の箱馬車に似て羨ましく、その下等車は警視廳の監獄馬車と見違ふまでの出來にて、之れも又面白く、かの下り坂を勢ひよく驅りゆく様、まことに疾風迅雷座を捲て來るとも評せんか。旅を終えて歸れるのち、ミナルヴァの君に聞けば、『あの……勢のよい面白そうなところを見て青柳さんが乗りたくならんでる筈はないッて話てた』と。然り、飛びつかんほどに乗り試み度、せめては一區域をだけのみなりなど思へど、如何に短き驛と驛との間にても、九錢より安きはあらじ。而して、我が持つところは僅に七十錢餘厘のみ、しかも是れ二日の料なり。我は一鍋の羮物に長子權賣りしエソウほどの馬鹿者ならねば、まさかに二日の糧を廢して、之に乗りため

さんほどの勇氣は出でじ。

けふも素より晝食は誤魔化さゞるべからず。約十四錢がほど、其處此處の小休みに腰うちかけて、駄菓子と梨子などに費し、可なりに腹ふたげつ。殊に江の浦といふ所に來れば、丁度正午の頃にて、海面遙に富士のけしき眺められ、妙景ゑも言はれぬ心地せらるれば、ふと仇心の起りて、大枚三錢五厘といふに、ラム子一本あふぎ飲み、贅澤を極めつるもをかし、大凡そ二時間が間其處なる棍の上にのたばりかへりユル〳〵一睡してのち立ちぬ。こは、東海居士によりて、我が耳には有名にせられたるかの伊豆山より、三里がほど手前なるなり。

ゆく〳〵人通りなき森影にも出れば、時々物狂はしき聲高くし、『聖なる哉アーメン』など、叫び猛り、或は地を踏み手を動かして小踊りする眞似し、時には、色々と眉をあげ舌を出し口しかめて可笑しき顏作りながら、獨り興がるなど、正氣の沙汰とは思はれぬほどなり。是に至れば、かの『福音新報』の記者が、我れを呼んで『果して正氣の沙汰なるにや』といひしも、げに〳〵無理なけれ。此る氣違ひじみたる所作するは、豈に此の日のみかは、日々のことなるぞ、愈々怪しかる。

頃は四時なり。かなたに柱の如く煙の立ち上るは、いよ〳〵伊豆山の濱邊にて、その煙の何となく磯臭き香のせらるれば、こは海藻燒きて、沃度などいふもの製するにやあらん。東海居士に敎えられたるまゝ、熱海より半里がほど前なる此の伊豆山に宿とることに極めて、新江島屋といふ小さき客舍にとは入りつ。階下には果して居士のいへるが如く、湯壷と湯瀧とあり、そこに揭げある衞生試驗所の分析表によれば、まことや腦病及婦人病に特効あるとのことなり。一浴を終へて膳の來るを待つ間に、階上の欄干にもたれて椅子に依りながら、携ふるところのウエルテル一卷を出し、かの若き戀人が人妻シヤロツテをクリスマスの前夜に訪ふて、その慰め叱せらるゝくだりを讀み、聲をあげて誦一誦すれば、我が感慨は最早や止め難かりけん、涙實に雨の如く下る。眼下數丈の下、巖銳に、波猛く、濤聲耳を突くの慨あり。多恨多情、所因なくして數々、人生の哀れに泣く游子の衷情、讀者それ察し給へよ。膳は出でぬ。

夕餐も濟み六時頃となる。熱海の見物に出て見んものと、念のため卅錢といふ宿錢拂ひて、たち出んとすれば、宿の老婆

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

のわざ〳〵提燈持ち行き給へよと勸むるまゝに、之を受けて寂しき夜路半里がほどたどり行きしが、途に『鈴木頁三別莊』と、筆太く書き刻みて、そのあとを白くさへ塗りて、恰も旅人宿の看板めくまで大なる門札ある前通り過ぎなどし、漸く熱海の町に入りつ。かの宮之下の怪しきまでくだらなきに失望せる我れは、またも熱海をつまらぬものと、初めより、くくりて行きしが、こ度は、却て、其町の仕掛大やかに、何となく景氣よくて、賑かに繁昌する樣の意外なるに驚かされつ。

この惡魔の子に一つの道樂あり。されど、こは酒を飲むこと、煙草を嗜むこと、將た花を買ふことなどにはあらで、顏と鬚とを剃ることなり。南石先生の道樂は入湯の度に『ながし』買ひて、三助に垢流さすることゝなりと聞きしが、我れはさして毛深しといふにもあらねど、毎週二回ほどは必ず理髮床に入るの習あり。今宵此の熱海にて、貧しきうちにも髯そりの道樂して樂まんかとは、朝よりの願なりき。また例の如く何か此の地の人寄せのなかに入りて、例の觀察遂げんとの意もあれば、そこはかとなくうろつきまわるうちにも、床屋と人寄せとの二つに眼を注ぎたりしもをかし。折よく浪花節の招牌あげたると床屋と相隣りせるがあり。されど、なほ勝れたる床屋もやあらんと彷徨ひしが、後に見しはこのものに劣りて不潔げなりければ、愈々こゝにてと決心せしも、先づ人寄せの方ぞ先きにと其門に至りて『一躰木戸はいくらですか』『四錢五厘』『仲錢はないのか』かゝること聞きたゞすも皆な懷中の怪しくして、かの小田原活動寫眞の時の如く、仲に這入りて又八錢などいふ酷き目に遇はざる樣、もしも木戸にて、餘りに高くば、引返へさんとの下心あればなり。『仲はありません』とのことに漸く安心して二階の席に上りしが、布團代一錢だけは又遂に取られつ。これは名古屋一流浪花節大聲社長鼈甲齋虎丸の一座なりけり。別に得るところもなく、ハ子を待たずに席を出で、直に隣家なる床屋にと入りぬ。仲々に三馬の眼と筆となければ、こゝに我が原稿種集めんは難く、ただ剃せながらも、絶えず氣にかゝるは、この剃賃それ幾何？といふ問題にぞある。國府津にては三錢なりければ、如何に熱海なればとて、三錢五厘は越えまじなど竊に心定め居りしも、嗚呼實際は五錢なりといふに膽ひしがれぬ。其萬事躰裁よく調ひ居りしも理りや。伊豆山の宿に歸れるは十一時なり

けり。
昨夜は提燈借りて、しかも石蠟の蠟燭一本悉く使ひあかし、且つは菓子さへ出されたれば、是非に茶代の少しも殘したしと思へど、今や殘すところ正味八錢一厘のみぞ、これなくんば此日到底餓死せざるべからず。遂に後ろ見るも恐ろしきまで氣の毒の思ひして、急ぎ宿出で、小田原國府津へと、足運ばせつ。小田原まで六里半、國府津までは七里半なり。伊豆山の風物は東海居士の形容ほど勝れたるものにもあらねど、小田原までの間は、仲々の絶景にて充つ。松の、巖頭斜に樹ちて海に臨めるほとりに、海人の鮑取らんと、水煙たてゝ、飛び入るなど、ゆかしくもあわれ深きものなり。さるところの宿場にて、晝頃ともなれば、茶店に息ひて駄菓子四錢がほど食らひ、茶代とも六錢置きて、これはロハよとしきりに茶のみ飲み居るに、つと傍の煮ぬき玉子に氣付きければ、何となく一つ試みたき心になりて、いくらよと問へば、三錢五厘とのことなり。如何でか、殘れる二錢壹厘に之を購ふを得んや。あわれとも〳〵。
小田原より大凡そ一里がた手前なるところにて、また茶店に入る。こたびは憐れにも一錢だけの菓子食ひて一錢の茶代殘し去りつ。今や漸く將に小田原に入らんとして一大事に會へり。こは橋錢ある橋の、この町の口にあるを忘れたることなり。かくとだに覺えば、かの茶代一錢は置かざりしものをなど、思ひかへせど、すでにせんなければ、たゞ橋を睨んで茫然と驚き佇むのみ。殘れる一厘にては如何ともすべき樣なし。事情を橋番に談らば、通行を免るされもせんなど思ひもせしが、遂に之をこゝぎ渉るに決心しつ。即ち尻をからげ、草鞋脚袢など脱して水に入りしが、仲々に川幅廣く水勢さへ急にしてそら恐ろしきほどなりしも、幸に深くはあらず、水はたゞ僅に膝がぶを越えしに過ぎず。漸く彼邊の岸なる河原に着きければ、稍々心安くなりしも足は益々疲れて重げなるまゝに、かの宮之下の下なる茶屋にて買ひ置きし草鞋と、用意のため。預ねて腰の圍りにはさめ置きし新らしき足袋とに裝ひを輕めて、歩みゆきしが、あゝ又過ちてけり、川はかの岸にて盡きたるに非ず、河原の影になほ一筋の川ありしなり。茲に又止むなく草鞋脚袢解きて、再び水を渉り、遂に小田原に入りしも、足は棒の如くして一歩も動かず、金は一厘のみなれば、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

素より鐵道馬車に乗る能はず、あまつさへ、腰息むるために茶店に入ることさへ適はねば、國府津まで一里が間、殆んど一町毎に、歩み出しては路傍に腰折り坐り、歩み出しては坐り、何萬里といふ遠路をたどる如き、重々しげなる心地して、點燈の頃國府津につきぬ。南石先生は、かねて我が京に殘しおける二圓と、外に一圓とを添へて、都合三圓の爲替を送りこし給ひてあり。嗚呼、悪魔の子が勇氣、今や當るべからず。

翌る日は、先づ大磯まで滊車に乘り行きしが、こは既に讀者も知る如く、湘煙先生を訪はんためとてなり。この先生、我が『佳人七ツ道具』讀みて、いたく怒らせ給ふよし仄に聞きたれば、けふ少し御心和け參らせんとて行きしが、却てさかしまごとに我が心の和げらせられて、午前九時より午後の三時といふまで、間斷なく談り續けつ。それより藤澤まで歩み江の島鎌倉に入り大船に出で、そこより又滊車にて歸京せんとの豫期なりしも、日は遲く天候さへ嵐にても持ち來さんずさまじき摸樣なれば、先づ鴫立澤を訪ふて茅ケ崎まで、せめては徒歩せんものと先生の門を出でしが、驚きしはその鴫立澤といふところなりけり。かねて此の處を觀んときの用意にもと、未だなすなくして國府津にありし日、女學雜誌合本のうちより、南石先生が『鴫立澤に於る西行』の一篇を讀み置きしが、今やこれを讀み置きしの故に、更に是處の殺風景にして沒詩想なるに失望しぬ。我れは、くやし涙に咽ばんほどなり。その茅ケ崎まで歩めるは是處に英傑團十郎の別墅ありと聞けば、せめて其外圍にても拜せんものと思ひてしによる。大磯より約三里と稱す。この地に着ける頃は今しも滊車の出でんとするところにて、もしこの列車を逸しなば、中仙道線に連絡すべきもの今夜中になかるべく、且つはその別墅まで、なほ十五町もあるとのことに、止むなく怨みを呑んで、滊車に投じぬ。板橋驛への最終列車は品川より我れの乘り更へしものなり。九月八日夜十時、悪魔の子家に歸る。以上は乃ち其日記なり。

（大尾）

この旅行を始むるの第一日、我れ先づ鎌倉に宿りて湯谷紫苑氏夫人くら子君のために、頗る勞らはるゝ所となり、この旅行記の第一に筆を著くるの日、君また健在にして能く室家のために勞せらるゝを見き。而して今や其七を完結せんとして君既に逝てあらず。追悼何ぞ堪へんや。この夏我が夫人分娩の日、君ために懇切至らざるなし。而して君の逝くや産後其平を得ざるに基す。我れの得たる所は、誠に君の失ふ所なり。茲にこの記の筆を擱くに當り、謹んで全篇を君が在天の靈に獻げて、それ之を享けよと白ふす。

記者謹識

同人社

（其六）

毎々女學雜誌拜見、其中、時々小生の心中に漠然として存在致し候志想を、完全なる文章として御寫出被下、心情の絃にピン／＼應響致申候。大不平家の一文の如きは、實に感謝不堪ものにして。世間此の如く余等の心情を表出し呉るゝもの他に求るも得さる儀に候。元來小生は、物に熱する癖ある上に、基督教並に英文學より、箇人の價値に就て非常に堅き信仰を受け、〇事件の節より今日に到る迄、時機に振れて噴出致し、學校の會議に於ても、生徒及び教員共の壓制を受けんとする毎に、自ら禁じ難くして、直言厲語致し候處、之を聞く者は少しも之を解し呉れず、又小生の任じて辨護する當人迄も、一切之を解し呉れず、唯々腹ふくるゝを致すのみに候。毎日々大不平にて苦み居り乍らも、小生若し人の上に立たば、此心を以て一般の心を平ならしめんと存じ、心中常に劃策致し居り、且世間も追々進歩して、此心情を理解し、箇人の性格よりして、國民の眞の偉大を作らざるべからず、否世間は如何にせよ學校は將來の國家の柱石、必ず進んで進んで止まざるべしと、余計の苦勞のみ致し、今にも時來るべし、機來れりなどと想像致し、幾分の喜憂を感居候處、此頃の世は獨逸風を超て、進んで露亞風の專制奴隷主義と相成り、然も大勢の上に於て、此風今後盛なるとも衰ろ所なしと存候ては、憂悶禁ぜんとして禁ずる能はず、唯々冬期は勉學にて熱情を之に注ぎ、夏期は花木を養ひ、各草各木をして競ふて其美を戰はしめ、人爲の壓制なからずして、雨降れば花に代て喜び、糞尿を注では木に代て舌を鼓し、其間言ふべからざる樂みを感申候。若し小生が他日志を得る日あらば、人間をも此花木の如くし、志を得ざれば花木と書籍とを友とせんと存申候。

學制論も、御論の如く、クダラヌ物にて、人間を變ぜざる以上は、如何なる案も致し方無之、まして高等校を大學に致すなどゝは、良き案としても實際は今日と變り無之、門柱の標札が變る位に候。今日人心の墮落は、種々の原因有之べしと存候得共、歷代文政に長たるものゝ責任は如何なるものにや、大樞の下に行動致す以上は、無責任と申候哉、色々の事考候得者實に心細く感ぜられ申候。

昨日赤十字支會發會式の爲め宮殿下御來駕、御出迎の爲め婦人は黑紋附襦袢の雪駄、小學校生徒に迄 紋附着用の上、整列の事。七八才の小兒を集めて、十二月に、學校には火を與へず、路上寒風に曝らして、二時間半も御奉迎、其外個人の學校衛生など實に輕きものにて、上益尊くして下益輕く、相成り、國家の祥瑞と存申されまじく間敷と憂痛致申候（仙台）。

（其七）

予が半生の悲さに昔の熱血も冷に相成、筆の生毛もと枯れかれなる今日此頃の拙文、御見捨もなく、幸に天女の羽袖に縫ひつけられ、讀者の理想世界にまでも、逍遙するの榮を蒙り候とは、めゝしく謂はゞ活て甲斐なしと見ゆる我世にありて、悲さをわすれる好箇のよすがに有之候予は貴紙の書齋に入り來るや眞に天女にまみゆるの喜を有する者に候、之は予が主觀に於ける一種の感想にして、不言不語の妙味に有之候、愬る感想は恐らくは予一人の感想にては無之、哀の中に慰めを求むる者は、切に貴誌を見て斯感の深きを覺ゆるならむと存申候

小弟は三年以前の秋東都を橫ぎり候節是非とも尊兄の御尊容に拜接せんとを希望したれども一宵夜の餘裕をも無之候ひしゆへ、拜接するを得ず、其後今日に於ても思を果さず、今後とても容易に相譯らず候故小弟は一度其機を失ひ候はゞ容易に取返しの付かざる者なるとを人生の實際的眞理として之を確認致候尊兄よ、小弟は尊兄に對して一種の痛切なる感情を有しおるものに候故、自分相應なる小なる卑影を御送附申上候て御見知りを願上候幸に尊兄の蕃影にても有之候はゞ、小弟の衷情のために惠まれよ、實に欣喜措くところを知らさる可きか

（讃州）

戀の歌

惡魔の子

○歌のなやみ

樂人の想ひこめし曲の音に
卿　朧々の聲あげて
歌へば　懷な　我が心
弱きは　卿の情けかな

○戀の夢

情は歌に　歌は情に
鬼金棒の　諺に　亂るは胸の惱みかな

何如なれは　かく幻に迷ふぞも
一昨夜來り　また昨夜も
恨思綿々　盡きざるか、
怨靈の影にも似たる姿かな
あゝ消え失せよ　戀の魔魎

○想ふ女

卿よ　夫ありさて　忘れ給ふな
夫は夫　我れは我れ
卿よ　戀人ありさて　恥ち給ふな
戀人は戀人　我れは我れ
縱にしだもあらば　我れは夫よ
我れは戀人

寄書

神戸教會婦人會に謝するの辭

朝比奈天行

人は二原的なる動物なるが故にや、一面に於て理想世界に脱離せんと欲すれば、一面に於ては現實の人生と握手せんことを欲し。試みに現實の世界と握手すれば、その手の殊に冷かにして、人情の生命なる微温をだも有せざるが如し。爰に於てか遂に理想世界の慕しければ、思念を所謂白雲の彼方に走せて、美の泉なる神を思ひ、愛の極致なる基督を思ひ、詩人を醉しむる天使を思ふて、情緒の不滿を充さんとするに至る。然れども人は非有非空の靈躰にあらず、現實の我等は形體を有す。人は抽象的なる理想にあらず、神の理想のある顯現に外ならす。我等若し悉く靈界の人たらむとせば、死その者を經過するにあらされば能す。死の彼方にある抽象世界の歡ひは、現實の我等の餘に遼遠なるを以て、竟に要求すべきにあらす。我等强てこれを窮めは、死ぬるより外に別途を有せず。一蓮托生、南無阿彌陀佛のこゑの、何にあわれにも惆悵の情のふかきよ。

人の弱點は抽象世界に遺れたる理想なる者を、具象世界の現實に顯現するにあらざれは、滿足するあたはざるにあり。譬へは神は愛なりと云ふも、我等の淺墓なる智慧にては、係る抽象世界の大問題を、實驗し得るものにあらす、唯基督の顯現せらるゝありて、具象的にも枯れ枯れなる人情世界を潤ほす、涙となりてあらわれ給ひしを以て、我等は基督を信して神の愛を實驗する者なり。何に佛心とは大慈悲なりと云ふも、下根なる者の耳に觸れては、誠に超越的なる者にて意義漠然たるを以て、中々に領解せらる可き者にあらす。されど釋迦が救世の大願を建てゝ、皮骨淋漓の苦行を成し、化脫の活路を眞如の光明に了得して、忍辱の袖に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

哀人の恨涙を拭むとさるに至て、我等は經句の妙味を實驗するに至らむなり。人は竊盗と呼ふも愛母、愛兒、愛妻のために、深夜隣家を恐喝して財寶を掠奪するの心事は、我等の同情の涙を一掬するに値するのみならす。そのかん神の子の光は、倘且かすかにも迷暗を照すにあらすや。人は薄情女と呼ふも、一夜の情に千年の契をこめ、この世、この生命、この身、この心を、即に献くる哀人の胸中、いかに朽さるの誠を含みて、天父の情緒を寸裂せんとする者あるよ。人はすべて神の子なり。獰惡猛奸の毒婦の胸中にも、その最奥の涙の袋には、義人の了解し得さる聖血あるを見る。

況むや我等は基督の知己なり。涙によつて神の子の眞意義を、了解したるものなり。人か我等の基督の徒たるを知るは、我等か單に祈禱の人にあらすして、愛の人たるか故にあらさる可らす。人は愛を理想するのみならす、愛を現實化せさる可らす。人は單に理想によつて活きす、亦現實によつて活る者なれは、理想の愛を現實化して、人の愛となさゝる可らす。人は理想の愛を慕ふと同時に、人の愛を要求す。然れともこは所謂人なる者の實狀ならむも、神の子は然る要求に備る處なかる可らす。神の子は神を愛し人を愛して活く可き者なれはなり。さはいへ我等は利已的動物なるを以て、理想に於ては而か思惟すと雖も、實際に於ては人に愛せられんとを望む。

女學雜誌は我の愛する天女なり。花影氏の所謂女性化したる木村長門守は、その聲、その心、その姿を、かれか精神の化身なる、天女の美音に歌しめて、明治の文壇に天上の聲を紹介しつゝ在り。我は然る尊敬を拂ふ女學雜誌に對して、少時は天地の一隅に放浪しつつありし身の、兩三年このかた絕てその面影と、その美音に接觸する能す。常に一種の寂寞の情に襲はれぬ。

然るに今春以來、神戸教會婦人會より女學雜誌を惠送せらるゝに逢ひ、幸にこの寂寞の情を醫するに至れり。我はこの教會の姉妹に對して、歳華匆々將に逝むとするの時に當り、一言の謝辭なかる可らす。我は未た諸姉を識らす、また諸妹に會せす、唯我の尊敬する原田助氏夫人の紹介を辱ふしたるのみ。我は諸姉の同情に對して謹むて謝意を表す。

諸姉よ。我は今日まて一個の英雄なりと思ひぬ、されと我は竟に然らさるを實驗せり。我は今日まて一個の大丈夫なりと已惚れぬ。されと我は竟に然らさるを知得せり。我は今日まて一個の富者なりと思ひぬ、されと我は竟に然らさるを開悟せり。青春時代に於ては我自ら我を欺むく。されと人生の閲歴は、その本然の躰を發露するに至る。發露せられたる我か本然の躰は、眞に哀れおほき貧者なりき。

多情多涙なる恨人なりき。深夜人生の悲哀に落涙する哀人なりき。故に我は人生の同情に觸れて、胸中に横たはる玉の緒琴に、涙の曲の奏せらるゝを覺ゆ。この曲は悲哀にあらすして慰藉なり。この慰藉は人生最後の美妙に觸着したるより來る。我は基督の心に觸れて無量の慰藉を覺ゆるか如く、人生の同情に觸れては、胸中の悲哀を醫さるゝを覺ゆ。我は人生最後の美妙は、同情に外ならさるを見止む。而してこの美妙の同情は、殆むと人生の凡ての問題を解釋するに、最も切實なる要素なり。人生の難問は凡て同情の分量に依て解釋せらる。さなから我は人生の同情に觸れて、無量の慰藉を覺ゆるか如く、我亦人生に向つて切實なる同情を表するとを得は、人生の悲哀はその幾部を減するを得るなり。されは我の利已的なるか如く、人生も利已的なるを以て、互にその弱點を補ふの必要あるを信す。されと我は天父基督の外人生に對しては、甚た孤獨の感に堪さる者なれは、希くは諸姉よ。常に我ために切實なる熱祈を賜へ。我は諸婦の熱祈の應援に依りて、社會に奮鬪するを得るなり。

（終）

本號は都合により女學欄の一を缺く。

當年の惣目錄は來年初刊の分に收む。

時事

○宗教法案

此法案は「世界之日本」記者が注意せし如く、寺院教會法案と改めんと然るべし。立案、大躰に於て善く出來たり。然し通過はいかなるもの乎。內閣も、議院も大奮發を要す。

○宗教教育隔離內訓に對する米人の反動

文部大臣の宗教教育隔離の內訓に對し、米國の宗教社會大に動搖し、日本に宣教師を派出せる諸傳道會社は去十一月中旬ニウヨークに代表者總會合を催ふし、日本に於ける六個の基督教主義學校の代表者が先きに東京に於て爲せし決議（本誌第四百九十號掲載）に贊同を與えたり。

○明治音樂會納會

有美

十二月九日ハウス顧問の指導に開かれたるこの會こそ、まことや、大音樂會といふべきなれ。我れ是れまで種々の樂會に參して數々聽きしが、この度の如く歐洲樂を味ひしと思ひしはなかりき。げにや、この日我儕の耳に入れられしは、まことの歐洲樂にて、これまでのくだ〳〵しきものゝ如く聽かするに非ず味はしむるなりき。其の一々の批評は、我れ斯道の學者ならねば、口出しはせざれ、あれほどの珍らしき演奏を、あれほど僅かなる人數にて聽きしこと、此の上もなく勿躰なく又口惜しき限りなり。たゞヘーンデルの作なるエライジヤのうちより拔かれしといふ「ハレルヤ」の讚頌曲は、待ちもうけし程に、感動を引き起こすこと能はず、我れをして起立せしむるまでに至らざりしぞ、物足らぬ心地せらるゝ。これ一段の奮動を要せられ給ふところならんか。

○猿之助と花橘と

同

當世踊りの師匠と稱するもの、素より其數少なからず、又これに堪能なるもの、必ずや多からん。かの舞姫のことの如きは、稍々藝術界に緣遠きものなれば、暫く措て問はず、今の藝人中尤も普通なるものゝうちに就て、よく踊り道の三昧に入りたるものなりとせば、我れは男子に俳優市川猿之助を推し、女子に寄席藝人立花家花橘を推すべし。家橘染五郎、如何に巧に踊ると稱すれども、その生意充滿して發作轉變の自在なること、到底猿之助に及ぶべくもあらず。若し夫れ花橘に至りては、その一たび起つて舞ふや、神來一時に四肢五體を貫通し、指頭の微に至るまで、なほ力あること鉄の如く、人、利劍を揮て之を切らんとすれば、却て其刄毀れんとするの慨あり。而して其容色の勝れたるものなきの故に、多く人目に上らず。悲しからずとせんや。近頃また長く寄席の場に上らず。敢て問ふ、幸に健在なりや否やと。

○橘絲重女史

同

また長く樂會の壇上に相見ざるものを、當代ピヤノの好寵兒橘絲重女史となす。敢て問ふ、女史また幸に健在なりや否や。聞くが如くんば、君の胸中常に詩想の混々として流れ竭きざるものあり、憂思綿々、絶えず襟を潤ふすとか。今や樂界その人あるが如くにして　しかも詩的宗教の素養を欠くもの、比々然らざるはなし。この時に當りて、世の女史に囑するや實に大なり。徒に拱手退隱して、浮き身に人生の哀れさをかこつのみ、まこと樂人の能事ならんや。人生の不平と人事の多恨とを其指に籠むして彈ずべし、而して樂壇に神來の聲あらしむべし。一陽來復して春笑はんとする時、櫻花青葉いろ豐かなる忍が岡の樂堂に、それ再び君を見ることを得んか。徒に人の世の錯誤多きに欺かれて、自ら棄つることなく、愼んで自愛せられよといふ。時や寒に近し、漫りにもとめて衰ふるをやめよ。

旅館寒燈獨不眠、客心何事轉凄然、
故鄉今夜思千里、霜鬢明朝又一年。

新刊書

暮笛集

薄田泣菫著
金尾文淵堂版　定價金卅五錢

《泣菫は樂耳を欠く詩人なり》

泣菫は詩人なり、情熱ある詩人なり。恐らくは、詩美神を拜崇して遂に物狂はしくなるまでの詩人なるべし。之を比すれば、なほ中西梅花に似たらんか。その鞠窮として苦心せるの跡、明に文字の上にあり、思想の如き又頗る富贍にして單調に陷れるの弊見えず、しかも晩翠の如く生意氣なる汚臭なきところ、殊に頗る敬すべく又愛すべし。されど聞く、思想豐かに、情迫り、考ふるところ潮の如く突き出で來る人は、數々口これに從つて動かず、遂に吃をなすことあるものなりと。泣菫の詩の如きは、此くの如くにして、それ詩の吃れるもの乎。一讀するに、『暮笛集』の作者は、調に拙なる人の如し。其の取りて以て我が雅號させらる『泣菫』の成語、既に頗る調音の典雅なるを欠き、人口に噌炙し難し。著作に命名せる『暮笛集』の如き、更に一層の不調子なる語なり。この欠點遂に全篇を通じて至る所に現はれ、頗る誦し難く味ひ難きものとなれり。これ枯川をして忍酷なる冷罵を逞らしめし所因にして、我が目して『詩の吃れるものなり』となす所因なれ。されど、我れは枯川の如く、この必死懸命の青年詩人を一呵のうちに冷待し去るに忍びず。察するに、薄田君は其聽感の訓練發達未だ充分ならずして、樂耳を欠く人なるべし。故に君のために切に希ふところは、君が耳に音樂的訓練を加へて、その聽感の樂的發達を許られんことなり。又『暮笛集』を一讀するに、未だ人情の痛切なる所に觸れ、天地の恐ろしく愴きまでの實相に觀ぜられたる跡なく、その歌ふところ、常に普通人情と普通智識との範圍を出でず、痛恨と煩悶との、暗欝として蟠り悶くことなし。是れ著者の未だ『おぼッちやん』にして、人生の酷き閱歷に乏しき故ならんか。されば、その戀愛を歌へるものゝ如き、同情豐かならず、到底人の血を湧かさしむるに足らざるも、却て慈悲友愛など罪なきものを歌へるには、讀者皆な感に入るべし。凡て人くさからざる程上出來に近く、殊に無邪氣なるところは、其長所なるに似たり。故に、泣菫の詩も、人をして感激せしめんは仲々に難く、晩翠を稱して生意氣詩人といはゞ泣菫を稱して『おぼッちやん詩人』といふ、又可ならんか。されば、薄田君にして若し少年詩（ヂユベナイル、ポエム）などいふものに心掛けられなば、必ずや成効あらん。我れは全集中恐らく最も短けれども、最も秀でたるものとして『粉屋の女房』なる一篇を茲に拔くべし。

> 野こえ、山こえ、谷こえて、
> 京へと問へば猶は三里
> 粉屋の女房笑顔よく
> 眉毛うちふり道を說く。
>
> （暮笛集　第百卅五頁）

我れは、此の如きを以て泣菫の最長所なりと斷信す。次ぎに全集中の白眉なりと思ひしは、第六十四頁なる八六調の『鐘』なり。想も形も調も能く揃ろひて、青年詩人が限りなき苦心の胸中をほのめかすものゝ如く、哀れに又床しき心地す。赤松默仙とぞいふ人の柳畵は、表紙の水彩と口繪のコロタイプとには、一向感服し難けれど、粗畵は凡て爲山風の禪味と詩趣とを備へ、筆力又雄健にして仲々に面白し。殊に『楫取川にて』に挿める牛（牧童は此の限に非ず）など出色の出來なり。凡て人を畵くは拙なるにや、醜し。

（有美妄批多罪）

明治書翰文範

開拓社出版　定價金廿五錢

この書によりて日本現時の書翰文躰を一定せんとの意ならば、蓋し途方もなき空想といふべし。『今日以後來らんとする所のものは余よりも賢知なるもの也……凡て余に似るものならんことを祈り申候』などゝいふ鵺めける文躰をかつぎ出されては、今日の亂雜なる文躰は益々亂雜となるべく、誠に以てたまらぬものに非ず。

されど、この書を題して『各家書翰文集』とせず、……

……のエル、サイゾ、セイタなど、……

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

では、今日の亂雜なる文躰は益々亂雜となるべく、誠に以てたまッたものに非ず。されど、この書を題して『各家書翰文集』といはば、蓋し仲々に面白き書翰文なのみ寄せ集めたるものよと、謹んで讃めまつらん。然し、世には淨瑠璃の文粹を集めて『倭文範』といふものさへあれば、この書とて必ずしも看板に僞ありとて、責めたてらるべきものに非じ。前段の『書翰を草する時の心得』、仲々忝けなしとお禮仕らんか。(有美妄批多罪)

旅懺悔

木崎好尚著作
大坂尚文堂版

何から何まで、乙羽子の『千山萬水』に似たれば、若しや博文館の發兌なるにやと思へば、全くさはなくて、大坂よりの印行なり。所々讀みもて行けば、よくも此てものを臆面なく、この生存競爭の激げしき世に出したるものかなと、驚歎を重ぬるのみ。別に觀察の奇警なるものあらず、されば迚て行文の人をして恍惚たらしむるほどの好勝あるにも非ず。まことや、『旅懺悔』とは、よくも命せられたる書名かな。讀者は、此るもの出さしめて、得意がることと、これ大坂文壇のつらよごしに非るやを疑ふ。(幽靈子)

迷信の日本

八濱督郎編
警醒社出版
定價金廿五錢

八濱君、篤學の志を以て、所々の山村水郷を巡禮し、或は古書の殆んど廢れなんとするものゝうちより、その材料を捜羅し、之を輯めて、諸雜誌の上に公にせしが、今や編せられて、斯書をなし、卷頭加ふるに、岸本姉崎二氏以下諸賢の論文を以てせり。世の未だ此ることに注意せざりしとき、編者すでに之に着目し、其の研究に專らなりしこと、蓋し多しとするに足る。讀み來れば、つまらぬ稗史小說を誦するにも勝りて、更に一段の面白味なり。(ABC生)

數學遊戲

竹貫直人譯
博文館出版

數學遊戲といふ題の面白げなるに誘れて、小供など一寸買ひ見んかとの好奇心も起るべけれど、遊戲とはいへ仲々に六ケしきものにて、下手な算數學の問題解釋せんとするよりは、之れを應用して遊び樂しまんこと、餘程の苦難なるべし。そのエル、サイン、セイタなどいふ喧しき希臘文字入の數式あるに至りては、最早や到底堪ふるべくもあらず。この正月の娯樂などに、至極調法のものなりなど申たれど、こげ嘴めしにてもたべて、しッかり腦を養ッてから後のことなり。(アルハ、ガムマ太郎)

內外遊戲全書 第四編 射的術

津田素彥著
博文館出版

こは射的術の法を丁寧に說明せんと試みたるものなれども、不幸にして、行文長湛の所多く、著者のみ『獨り合點』といふ嫌なきに非ざれば、この書を一讀してのみ、射的の名人となり得べしと思はゞ、とんだ誤りなり。たゞ既得せる技術の參考にも資せば、得るところ多からん。 定價金拾二錢(案山子)

世界歷史譚第七編 漢高祖

三浦菊太郎著
博文館出版

題して漢高祖といふも、能く其時世と包圍とを說き、加ふるに高祖を助けて、天下一統の大業を成就せしめたる張良韓信以下の諸英傑と敵將項羽のこととをも併載せて、頗る細に達す。その文をやる又巧みにして、彼の前編なる『マホメット』の著者の拙劣なるが如き比に非ず。且つや、地理の說明に現時の地名を挿み、又家康秀吉と比較するなど、少年諸君をして、興味を覺えしむること、尋常にあらざるべし。北蓮藏氏の挿畫また頗る活動に富み、樊噲が帷を披け眼を瞋らして項王を視る圖など、殊に出色の出來なり。たゞ表紙の意匠のみは、不折子の『耶蘇』の表紙畫を燒き直ほせし如くに見えて、頗る陳腐なり。 定價金拾參錢(幽靈子)

校訂 吉野拾遺詳解

中村秋香著
博文館出版
定價金廿五錢

先づ『吉野拾遺』を播て目に觸るゝは、後醍醐帝が吉野の行宮に、櫻の花御覽せられて句當の內侍に仰せられしといふ『こゝにても雲井の櫻咲にけり只假初のやどゝ思へど』の御歌にて、そゞろに涙の種ならぬもの、あわれ一つもなきほどなりされば、この書の讀本として趣味多きは、いふまでもなきことながら、世に行はるゝものには、誤謬多しとて、著者特に此書を公にせられる。註釋頗る親切にして、四號活字の本文頁に、五號字の註釋大凡そ二頁以上の割合なり。如何なる愚

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

物も之れにたよらば決して難解に苦む如きことさあらじ。（平田氏子）

家庭文庫第九編　女子普通文典、　下田歌子著　博文館出版

我が邦にては、言文に大なる徑庭あるのみならず、又女子さ男子さの間に、言語文章の異りたるさころ多ければ、女子のため又特別なる文典なかるべからずさは著者がこの書を刊行するに至れる所因の理論なりい　けれご實際此の書のうちに、特に『女子』の肩書附するほごの相違ありさは思はれず。たゞかゝる珍らしき書名さ著者の名さに於て、聲高の崇まるべきは疑あるべからず。　定價金參拾五錢（上詩庵）

帝國百科全書第卅六編　商工地理學　永井惟直著　博文館出版

さして事珍らしく彼れこれいふほごのものならねば、格別の批評も下しかぬれご全篇を通じ、獨り貿易物産のことに詳くして、交通運輸のことに關して、頗る記述を粗畧せるの憾あり。假令ば門司よりマルセイユまでは何日を要すべく、巴里よりマドリッドまでは何時間を費すべきか。この種のことは、誰人も知らんことを欲するさころにして、しかも多くの地理書に欠くるところなり。商工地理學の如き、よろしく此邊の注意なくてはかなふまじ。　定價金參拾五錢（地理學教員）

乞食王子　巖谷漣山人　黒田湖山人　川田河山人共譯

筋は頗る面白ろいものではあるが、殘念なことに、この書の譯者ごもは、外國歴史の智識に乏しい様だ。それがため、折角の面白ろいさころが、時々無意味になッたり、極はめて明瞭な所が極めて不明了になッたりして居る。不折の畫いた口繪は、何か原本の挿畫を寫したためでもあふが、全面活動を欠いて寢ぼけて居るまことに腹たゞしいことだ。　博文館出版　定價金卅五錢（大少年子）

天孤一輪月　星散萬家燈

吉原細見を持つて居てゝ娼妓の名の上に△や○や◉の付いてあるもの、又消してあるものもある、總べて有名な女郎は殘らず買つて居たの其印は手enの
女、美しいのさ强く、の

片々

◉我國のツラスト　は現に關西同盟漁船會社に行はる、但た米國のツラストは專制政治にして秘密政治、我國のは會議政治にして非秘密政治なり』さ東京經濟雜誌の藤田氏は言へり。

◉目前の腐敗何かあらん　我國に於ても腐敗の氣彌々浸漬し更に益々進漸して上下貴賤皆な欺騙に慣るゝの餘、黠智能く他の詭罔を看破して之をして欺騙を逞くし得ざらしむるに至れば則ち詐謀騙瞞の以て利を營む所以の道に非ざるを覺へり、かくて腐敗の間自然に欺騙を減じて漸く信用を重んずるに至るべし。此腐敗は運命に於て自然に進善すべき好望を有すれごも、其自然に進善すべき好望を有するの故を以て決して之を等閑に附すべからず、能ふ限り之が改善に努むるを可さす。畢覚するに、見下の腐敗は到底改善の望無しさして落膽すべきものにあらず。又決して自然に改善に就くべしさして放置すべきものに非るなり。（日本人）

◉臺灣の風紀　は『にひたか』にある下の一文によつて察知すべし。其文宛然東京新誌、其事正に臺地の通人。曰く豐山の鐘は敲かずして自ら鳴り、魏榆が石は非情にしても言ふ。藝妓梅八が赤十字社の終身會員さなりしは、非情にして自ら鳴りしもの、支部長の博愛思ひやるべしさ。

◉河井繼之助氏の修養時　近畿評論第十一號に、鈴木無隱君の談話あり、珍らしく面白く讀みたり。中に、河井氏の說さして曰く、

人間さ云ふものは棺桶の中へ入れられて、上から蓋をされ、釘を打たれて、土の中へ埋められて、それからの心でなければ何の役にも立ぬ、今の世間一般で心さ思ふものは、眞の心ではないのだ。今ま世間で思ふ心さいふものは、殺し拔いて仕舞ふて見ないさ、心でないものを心さして、物を想像するのであるから、曲つた定規で物を裁つやうなもので、裁ては裁つほご曲つて仕舞ふ。此の本源から着手して往かなければ、善い事をしても皆な上邊の事になりて仕舞ふ。天下を經綸しても根本から改造するとは到底六かしい。

る由なるが、其等姿妓讀を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

吉原細見を持つて居て、娼妓の名の上に△や○や◉の付いてあるもの、又消してあるものもある、總べて有名な女郎は殘らず買つて居た。其印は手取の女、馬鹿の女、美しいのと醜くいのとの見分けだ。そして言ふに、

此通り己は女郎買をして見た。お前にはならないと言ふて置たが。この婦人に溺れると言ふものは惰弱な意氣氣地なしの溺れるものでない、英雄豪傑が却つて溺れるものである。夫は後ろから羽織を着せられて、脊中をポンと叩かれるの何んのと云ふ譯でない、言ふ可らざる間に鐵石の腹を溶かすものがある。口説や手管に英雄豪傑は騙されぬけれども、一種言ふ可からざる情に於て其身を誤まり易い。英雄の氣質を備へて居る者ほど尙ほ危險に思ふ、それだから決して成長しても是ればかりはするな。

河井氏去る後ち、誰を師とせんかと問しに、古賀の塾では、土田衡平ばかりだと言はれた。而して土田氏とは一回も話しをしたとはなかりしとぞ。土田衡平の曰く。

一躰英豪傑が人を見るのに、話しただの議論を聞いて知ると云ふトロッコイことでは、世に處するとが出來ぬ。

そんなら、何ふ云ふ處で御覽なさると聞いたら、

それは碁を打ち將碁を差す處を見て、河井の人物を知つた。今までアンナ愉快な碁將碁と云ふものを見たとが無い、まるで眼中に勝敗と云ふとがなくて、而して勝を制してゆく。

英雄、英雄を見る、心相貫くが如し。而して河井繼之助の事を記するに連つてはかの山本帶刀の事を連想せずばあらず。八月廿六日の日本新聞、北越雪譜に云はく、世の繼之助を知る者、單に官軍に抗敵して薩長の大軍を惱ましたりと云ふに在れど、其實此人の偉大なるは、藩政を釐革し、府庫を充實せしめ、廢娼を斷行して、而して一種の社會主義を實踐したるにあり。『長岡に、繼之助ありしとは、世人能く之を知らん、山本帶刀なる一個の豪傑ありしとを知るもの稀なり。今は休職中なるが、大沼渉と云ふ陸軍の少將あり、此人、戊辰の役、西鄕に從ひ、越後口の戰爭に向へり、常に長岡の戰を語り出でゝ、言、山本帶刀の事に及べは、悽涼自から禁ぜざるものあり、當時、大沼は桐野と同じく山本訊問の局に當りたる由なるが、其容姿端麗にして俊秀風骨を備へ、音吐明晰にして少しも淀まず、其身分姓名を問ふや、音聲を一段と張上て『二千石山本帶刀』と答へし言語の今に猶ほ耳存するが如しと曰へり。

◉日本弘道會　西村茂樹翁積年の苦心多とすべき哉。玆に日本弘道叢誌第九十二號(十二月)に載たる日本弘道會々員の男子女子、全國に於て驚ろくべき多數となれり。其の數の十分の一にも及ばざる十善會に於ける釋雲照師の名彼が如く、而して西村翁の事業此の如く聞ゆるとなきは何故ぞ。

◉憲政黨　世界之日本記者が憲政黨を論ぜしは卓見なり。曰く、憲政黨は政治社會の佛蘭西なり、彼は動亂す、內訌す、喧嘩す、然れども是れ彼の佛蘭西が幾多の內亂によりて歐洲の觀客に演劇するが如く、政治社會に對して、其劇を示すに過ぎず、其實は風雨過してまた痕跡なし、而して彼佛蘭西の純朴質素なるカヴールの農民が、一の天才の出るに逢ふや勇進邁往、殆んど天魔彼間に似たるが如く、憲政黨も、其個々につきて云へば、平々凡々となるに係らず、一個の首領を得れば則ち突擊憤進、後を顧みざるに至る。是れ憲政黨が其分子の蕪雜なるに係らず、其內訌の數ば起るに係らず、其秘密の容易に外に洩るゝに係らず、猶ほ堂々として必勝の勢を制し、常に生氣あり、常に伸張の氣あり、常に少壯生長の氣ある所以也、思ふに佛國が幾たびか蹉跌し、幾たびか興隆するを見るものは、以て憲政黨を知るに足らん』と。

◉海舟先生の父夢醉翁　の夢醉獨語は秘本なり、此頃ろ舊幕府雜誌に連載せらる。其一節に云く(九才の時の事)

柔術のけいこ場で、みんなが己を惡くがつて、寒げいこの夜、つぶしと云ふ事をする日、師匠からゆるしが出てゝ出席の者が食いものをてん〳〵にもち寄てくふが、己も重箱へまんぢうをいれていつたが、夜の九ッ時分になると稽古をやすみ、皆々持參のものを出して食ふが、己もうまいものを食つてやらふと思つて居ると、みんなが寄て己を帶にてしばつて、天上へくゝしあげおつた、其の下で不殘寄おつて、おれがまんぢうまでくひをる故、上よりしたゝか、己が小便をしてやつたが、取ちらした食ものへ小便がはれをつた故、不殘捨てしまひおつたが、其時はいゝきびだと思つた。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◉赤十字社篤志看護婦人會　近頃萎靡振はざりしに付幹事長殿下憂慮せられ、このたび刷新して去月十七日開會し再たび振張せらるゝとなり、以後一回づゝ催さるべし。

◉仰德會　英照皇太后宮の御德を仰ぎ、京都に御靈の安置殿を建て、御忌日每に御祭を行ひ、夫に添えて種々の慈善事業を爲さんとて、仰德會と云ふを起さんと計畫中の人あるよし。

◉婦人質問會　婦人質問會は我邦婦人の一般の智識を養ひ兼て社交上の品位を高めんとの目的にて數年以前より組織せられ駿河臺鈴木町に閑靜なる家屋をしつらい會場に充て會長には岩崎夫人顧問としてミス、プリンス姉妹を聘し鳩山、瓜生、武田、柳谷、矢田部の諸氏夫氏津田梅子孃等の熱心なる盡力により春風靄然たる裏に暖かき交際をなし來りしが今や其規摸を擴張せんとて鳩山、津田諸婦人は基金募集の計畫の由なるが岩崎婦人は先頃一千圓を其建築費として寄附せられしとか。

◉高等女學校　福井の高等女學校は、去十八日新築落成の開校式を擧げ、仙台の高等女學校は、去十六日同じく竣工式を擧げたり。

◉名古屋の娼婦問題　前號に揭げたる同問題に關し、日本婦人矯風會の總代矢島揖子、潮田千勢子、本多貞子の三氏より內務司法兩大臣に陳情書を差出したり。

◉女子の請願書　一夫一婦、刑法改正、海外出稼婦女取締の請願書一千餘名の婦人方より貴衆兩院へ差出したり。

◉麻布の孝女　麻布飯倉三丁目五番地長唄の師匠杵屋巴尾吉本名長岡かれは、東京府知事より左の如く賞與ありたり。

性質順良克く繼母に事へ一意承歡玆に四十有餘年隣保勸むるに夫を迎へん事を以てするも孝養の或は缺けんことを憂ひ之を肯はず母の病床に在るや看護誠に致さざるなく其遂に壽を終るや葬祭喪を竭さゞるなし其孝道の篤き奇特とす依て爲其賞金一圓を下賜す

◉ウオード夫人　日本郵船會社のシャートル線開航以來同地在留の日本人は常に五百餘名を下らす中には隨分本邦の躰面を毀傷する程のものも尠からざるより有志者之　慨し青年會夜學校を設けエルヴイー、ウオード夫人を招聘して教師となしたるに盡力少からざるより同地の日本人共勵會にては今回歸朝の山下氏に托し杉村通商局長に其事情を陳べしめたりと云ふ。

◉天足會　台灣台北大稻埕の洋醫黃玉階が發起となり過日仝地青年倶樂部なる步蘭亭の席上に於て李春生葉爲圭外二十余名と協議の上天足會なるものを組織したる趣旨を聞くに支那の舊慣たる婦女の纏足は固より天理に背戾するのみならず人性自然の起居動作をして枯死せしめ加ふるに纏足初期に於ける婦女の困難と苦痛とは言ふに忍ひざる無情の束縛なり凡そ其國に在りて其習慣に從ふは已を得ざる次第なるも既に文明なる日本帝國の領土となりたる今日猶ほ此惡習慣を墨守するは心ある者の傍觀を許さゞる處たり既に此惡習に染める婦女は今に至りて如何とも致し方なきも今後出生する婦女子に對し纏足せしめざる樣先づ此會の會員たるものより摸範を示し漸次に各方人民に及ぼし天與の起居動作に差支なからしむるは以て一方に生產の力を增進するものなるべく現に廣東落樂の婦女の如き屈强なる男子と其勞働を比較して更に遜色あるを見ず是れ天理の自然に順ひ國家の生產を增殖する刻下の急務なりとす云々と即ち集會せし二十余名も立ごころに其理に服し名簿を調製し尙は其方法等を議走し玆に始めて天足會の組織成るを告げたるが追々每月一二回の會合を爲して大に擴張方法を圖り規摸稍見るべきに至らば公然官に屆け出で永遠の基礎を堅むる都合なりとぞ其擧何ぞ美にして且つ義なる(台灣日々新報)

東京に於ける池坊(雪月庵花大)	讀賣新聞(十二月。十八—廿三)
公娼の非義を論ず(島田三郎)	每日新聞(十二月。十四日)
埼玉縣の公娼問題	同(十二月。廿四日)
勇敢なるボア婦人	中央新聞(十二月。十九日)
音樂談片	日本(十二月。十八日—)
令孃鑑(續)(松平繁子同任男子。水野淸子)	千代田日報(連載)
阿母之友	報知新聞(連載)
幼者の保護監督	都新聞(十二月。十四日)
夫人の素顏(續)(金港堂原夫人)	報知新聞(連載)
日本女子の不健全	大阪每日新聞(十二月。十六日)
女子教育の新方針	富士新聞(十二月。廿四日)
古今婦人髮のゆひぶり	東京朝日新聞(連載)
家庭叢話	上野民報(連載)
女職に就て	報知新聞(十二月。廿四日)
家內の經濟	万朝報(連載)
(落語家。葬儀屋。差配人。球技場。下駄屋、寄席。牛乳搾取業家庭の主腦(富岡幸助)	上野民報(十二月。十四日)

故人の三書

故鈴木弘恭先生述

第七版 百人一首講義 一冊二十五錢 郵税四錢

此書初版以來、甚たく愛讀せらる。百人一首講義多かる中に、信切、緻密に解釋したるもの、先づ此書を推すと評せられたり。歌道に志ざさん人、並に正月の樂しみに心構えせん人たち試みに一讀あれ。又、年末年頭の贈品としては、表装美くしく、極めて風雅の趣きあり。

故若松賤子譯述

第二版 小公子 一冊二十八錢 郵税八錢

「小公子」既に世に定評あり。純潔可憐の讀物として、久しく推重せらる。此たび、英文原書出版せられ、手易く購讀さるゝに付、もし兩々相列べて讀み玉はゞ、英語獨學、譯述參考などに助けすると多かるべし。

故海舟先生高談、巖本善治筆記

第二版 海舟餘波 一冊三十錢 郵税六錢

富田鐵之介、木村芥舟の二翁、勝海舟先生に關する著作中の第一として賛賞せられ、筆記眞に迫り、之を讀んで目あたり故伯に面するの心地すと言はれき。

以上三書 女學雜誌社、出版及賣捌

雜誌 舊幕府 第三卷第九號目次

○挿圖（會津日新館之圖）
○附錄 夢醉獨語（勝海舟翁父自傳）
○史料 日新館之記○杉浦氏日記抄○長州征伐御進發日記○出石藩仙石家沓記
○史傳 坦庵江川先生傳○栢木淡水傳
○史籙 本多晋翁名馬○碑文○漫錄○大津謡ふし○駿藩各所分配姓名錄○御軍役人數錄○觀易樓隨筆
○詞藻

定價一部十二錢郵税一錢

發賣所 東京日本橋區 每日新聞社
出版所 東京巣鴨村 舊幕府雜誌社

小公子

LITTLE LORD FAUNTLEROY
BY MRS. F. H. BURNETT.

エフ、エチ、バーナット女史著

上製美本石版密譜十數葉入全一册定價金一圓廿五錢郵税十錢並製クロース表紙美本定價金七十五錢郵税八錢

「バーナット」女史の筆は、流快にして眞に迫るを以て、其名泰西に鳴る、本書も亦女史の筆に成り、字々句々一として快ならざるはなく、頴悟なる小公子が、天眞爛熳にして無邪氣なる所作を、寫し得て極めて妙なり、英文學研究に最も適切なるの書なれば、師範學校、中學校、女學校等の敎科書として最適當の良書なり、

發行所 東京神田區雉子町卅二番地 岡崎屋
東京神田區表神保町二番地 中西屋

故若松賤子女史譯述

再版 小公子

全一册洋裝美本 紙數三百五十頁 正價金三十五錢 郵税八錢

近代歐米の讀書社界を震動し、劇場に演ぜらるゝと數十百回、一代の流行を左右して、一時年少の子をして悉皆小公子の如くならしめしと云ふは、此書原本奇代の勢力なり。純潔無邪氣、天使の如き一少年は、頑陋執拗の老侯爵を感化す、德に隣あり、母に佳人あり、貧しきを憐み、小作人を愛撫し、言行惣く甘露慈雨の如し。讀去り讀來るうち讀者亦自から化せらるゝを覺ゆ、何ぞ其の可憐高潔なるや、少年固より讀まざる可らず、婦女老人亦讀まざる可らず。賤子女史嚢に其前篇を譯して世に公にするや、譯文の巧妙を以て亦た一時に喧傳す。森田思軒居士之を以て明治年間譯文の最上乘のものとし、激賞措かず、曾て其第一頁を見て忽ち驚き、一夜通讀、曉に徹し遂に卷を棄る能はざりしと云へり。然るに女史其後篇を公にするに及ばずして不幸長逝し、知人愛惜の情を寄せらるゝと切なり。即ち嚢に其遺稿を收め、女史が一周忌日に會せんとして前後二篇を合せ刊行せしむ。其友湘烟中島女史は字を題し、鄉友松井昇氏は密畫を附せり、同好の士、希くは一讀を賜へ。

出版元 東京日本橋區本町三丁目 博文館

大賣捌 東京巣鴨村庚申塚 女學雜誌社

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

明治三十二年五月十九日遞信省認可

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

明治三十二年五月十九日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治三十二年五月十五日遞信省認可